

# 令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書



令和5年8月  
調布市教育委員会

## 災害に強いまちを目指して

次代を担う子どもたちを中心に，地域・家庭と一体となった防災教育を推進し，一人一人の防災意識の向上により，地域社会の防災力を高める。

# 目 次

## 第1章 令和5年度事業の概要

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1-1 調布市防災教育の日とは ..... | 2  |
| 1-2 令和5年度事業の概要 .....  | 4  |
| 1-3 令和5年度事業の総括 .....  | 13 |

## 第2章 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 2-1 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」の概要 .. | 16 |
| 2-2 訓練参加職員からの意見等について .....            | 20 |

## 第3章 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

|                   |    |
|-------------------|----|
| 3-1～20 小学校 .....  | 36 |
| 3-21～28 中学校 ..... | 56 |

## 〔資料〕

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 令和5年度 各学校実施内容（1～3校時） ..... | 66 |
|----------------------------|----|



# 第1章

## 令和5年度事業の概要

**ねらい** 東日本大震災の教訓を忘れない

- ◎ 「命の尊さ」について学ぶ
- ◎ 「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童・生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける
- ◎ 「地域と一体となった震災対応システム」を構築する



VR防災体験車による震災疑似体験（杉森小学校）

## 1-1 調布市防災教育の日とは

平成23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした未曾有の被害に鑑み、調布市教育委員会においても、改めて自助意識の啓発や関係機関の連携を踏まえた全市的な対応の重要性を認識しました。

### ◆「調布市防災教育の日」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命が失われ、改めて「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高めて児童・生徒自身がそのための行動様式を身に付けていくことの重要性を認識しました。

このことから、調布市教育委員会では、平成24年2月に、調布市内のすべての児童・生徒が自助・共助の力を身につけるため、次の2点を目的に、毎年4月の第4土曜日を、「調布市防災教育の日」として決めました。

- ① 震災時の対応を学校の教育課程に明確に位置付け、防災教育を充実させていく
- ② 震災時対応シミュレーション(下記参照)の検証を行う

### ◆「調布市防災教育の日」の取組方針

調布市防災教育の日においては、児童・生徒に対する「命」の教育のほか、震災発生直後から学校関係者が行う初動対応や、地域の協力を得た避難所の開設と運営の訓練などを、学校と保護者・地域が一体となって、市立小・中学校全校で一斉に実施することとしました。

各校においては、次の3点を共通して取り組みます。

- ① 「命」の授業を1単位時間行う
- ② 防災に関する保護者・地域への啓発講話などを実施
- ③ 「震災時対応シミュレーション」の検証

### ◆震災時対応シミュレーションとは

震災時対応シミュレーションは、調布市立小・中学校28校において、学校の各施設や教職員の状況に応じ、発生後72時間(3日間)の対応事項を学校別に想定し、まとめたものです。

### ●発災想定

震災時対応シミュレーションでは、調布市において最も深刻な「多摩直下型の震度7の地震」の発生を想定し、発災想定時刻は、各学校の4校時授業中の「午前11時24分」としています。市内では倒壊家屋が多数発生し、京王線は運転を見合わせ、市内全域で電気・ガス・上下水道といったライフラインは全てダメージを受けて供給が停止、道路は損傷や渋滞で使用困難な状態です。

## ●震災時対応シミュレーションの構成

各校の震災時対応シミュレーションは、「学校現況等」（学校の周辺の施設や地理的特徴、学級数や生徒数などの学校概要、教職員のBCP（事業継続計画）想定状況、学区内の昼間・夜間人口数、避難所としての一時・長期収容可能人数、中学校においては生徒の奉仕活動の割当人数及び取組）、教職員の対応時に想定される「係分け」、1～3日目までの「対応シミュレーション」の3部で構成されています。

## ●想定される係(例)

全体責任者を学校長とし、教職員は各係に分かれて対応します。シミュレーションでは、各係の担当教職員名を明記します。

### ▼係の例

|           |                            |
|-----------|----------------------------|
| ①児童・生徒対応班 | 情報連絡係、避難誘導係、消火・巡視係、救護係、搬出係 |
| ②避難所支援班   | 総務・情報係、避難所係、物資係、救護・衛生係     |

### ▼震災時対応シミュレーションの例

**市立第一小学校のシミュレーション**

1 学校現況等

|   |
|---|
| <p><b>周辺環境：</b> 調布駅近接。大型商業施設近接。甲州街道に隣接し、特別支援学級あり児童が多い大規模校。市役所からは一番近い小学校。電気通信大学や北多摩病院が近くにある。</p> <p><b>学校概要：</b> 19クラス、児童655人。特別支援学級固定学級3クラス19人、通級（きこえとことば）3クラス、都職員(教員・事務)38人、市職員(栄養士・給食調理員・業務員)5人。</p> <p><b>教職員対応：</b> 教職員自身の子どもを引き取り、家族介護等でやむを得ず1日目の終業時間後に帰宅することを想定する（40%減、38人→23人）なお、帰宅した職員については、各職場で事前に状況を把握し、交代で出勤する体制を組む。</p> <p><b>学区域人口：</b> 昼間人口約36,000人、夜間人口約20,000人</p> <p><b>収容可能人数：</b> 一時収容 966人、長期滞在 483人（地域防災計画による）</p> |
|---|

2 想定される係（全体責任者：学校長 \_\_\_\_\_）

児童対応班（責任者：生活指導主幹 \_\_\_\_\_） ◎は係の責任者

| 担当     | 業務内容   | 担当者 |
|--------|--|-----|
| 情報連絡係  | 人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け、学校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他、災害に係る情報を収集し、関係者に連絡する。  | —   |
| 避難誘導係  | 校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。  | ◎   |
| 消火・巡視係 | 校舎の被害の確認、行方不明の児童の捜索、初期消火、火元の遮断、出火防止対策、火災の警戒、ガス、水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い、点検結果等を情報連絡係に連絡する。                        | ◎   |
| 救護係    | 養護教諭を中心とする。救急薬品の確保、軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については、応急手当を行い、災害対策本部、医療機関、医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。 | ◎   |
| 搬出係    | 重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は、非常持ち出し品を搬出し、管理する。なお、非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は、他の係への応援要員とする。                    | ◎   |

避難所支援班（責任者：副校長 \_\_\_\_\_）

| 担当     | 業務内容   | 担当者 |
|--------|--|-----|
| 総務・情報係 | ・避難所運営本部設置場所の決定<br>・情報の収集、整理、確認及び伝達<br>・避難者名簿の作成、整理、管理 | —   |
|        | ・避難所運営連絡会の設定<br>・避難所内の情報提供場所の設置<br>・市災害対策本部との連絡調整      | —   |

|        |  |   |        |
|--------|--|---|--------|
| 避難所係   | ・避難所に使用するスペース<br>・避難者の誘導<br>・ボランティアの組織化          | ・立ち入り禁止区域の指定<br>・避難所生活のルールの策定   | ◎<br>— |
| 物資係    | ・防災備蓄用品の管理、配給<br>・飲料水、生活用水の確保、配給                 | ・救援物資の受入れ、整理、管理、配給<br>・放き出し   | ◎<br>— |
| 救護・衛生係 | ・医療救護所設置場所の事前確認<br>・仮設トイレの確保・設置<br>・トイレ、ごみ集積場の清掃 | ・医療救護所への協力（設置されない又は設置されるまで応急手当の実施）<br>・トイレ用水の確保<br>・衛生管理<br>・PTSDへの対応 | ◎<br>— |

1 日目

| 時間    | 状況   | 調布市の対応                                  | 児童への対応  | 避難所対応  |
|-------|--|---|---|--|
| 11:24 | 多摩直下型震災発生。倒壊家屋多数。京王線運転見合わせ。市内全域で電気・ガス・上下水道供給停止。道路は通行不能又は渋滞 | 市民に対し、防災行政無線で、地震の情報、火元の確認を周知する（総合防災安全課） | ①児童に防災頭巾を被らせ机の下へ避難など安全確保（1次避難）<br>①給食調理員は、給食室の火気の安全を確認し所定の役割担当に従事 | <p><b>避難所運営</b></p> <p>→震災初期段階では、教職員が中心的な役割を担う（地域防災計画・学校防災7-76）</p> <p>※学校長を学校災害本部長とし、生活指導主任・学級担任26人で保護者の引き取りまで児童対応。避難所開設・運営は副校長ほか11人と市職員5人で従事</p> <p><b>（避難誘導係）</b></p> <p>①伊東・高野教諭は体育館の安全確認。その後、一旦体育館に避難（2次避難）<br/>（救護係）<br/>①廣瀬教諭は児童の負傷状況の状況確認。応急処置</p> <p><b>役割分担の確認</b></p> <p>→学校は、児童の安全確保体制、避難所開設体制がとれるよう役割分担しておく</p> <p><b>学校と地域</b></p> <p>→避難所運営は、避難者と地域の協力を得て実施。</p> <p><b>備蓄品と庫の確認</b></p> <p>→日頃から教職員全員が備蓄品と備蓄庫（校庭南側・体育倉庫棟）の鍵の所在を把握しておく</p> |

## 1-2 令和5年度事業の概要

令和5年度の調布市防災教育の日は、令和5年4月22日土曜日に実施しました。事業開始から12年目、11回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため、中止)となっていることから、本事業への理解が学校関係者、保護者、地域住民等へ広がっています。

保護者・地域の方を対象とした、学校教育活動の公開については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度から引き続き中止しました。

### ◆令和5年度事業における事業概要

#### 1 実施日・場所

令和5年4月22日(土)

市立全小・中学校28校，大町スポーツ施設(市統一テーマ訓練のみ)

#### 2 事業概要等

##### (1) 事業概要

| 時間    | 学校教育活動(例)                                    | 市統一テーマ訓練<br>「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」         |
|-------|--|---|
| 8:45  |  | 市職員・地域の方集合<br>一日の流れの確認 等<br><br>避難所開設訓練 |
| 9:15  | 1校時 防災啓発講話                                   |   |
| 9:30  |  |   |
| 9:45  |  |   |
| 10:15 | 2校時 「命」の授業                                   |   |
| 10:45 | 3校時 安全指導                                     |   |
| 11:00 | 避難訓練・引取訓練<br>・校庭への避難<br>・講評(校長)<br>・保護者による引取 |   |
| 11:20 | 下校   |   |
| 12:00 |  | 片付け，振返り，避難所運営本部(教育会館)への終了連絡             |
| 12:15 |  | 解散                                      |



## (2) 学校教育活動

### ア 「命」の授業・防災啓発講話

児童・生徒に命の尊さや「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を実施しました。また、調布消防署員及び国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員による、地震・水害をテーマとした講話（録画）や、東日本大震災の被災地等の講師による、実体験に基づく防災啓発講話を実施しました。

▼「命の授業」：アルファ米の調理・喫食体験（深大寺小学校）



▼タブレットを活用した防災知識の習得（調和小学校）



▼煙体験訓練（第八中学校）



▼東日本大震災の復興に尽力された方による講話（調布中学校）



### イ 避難訓練・引取訓練

全学年一斉に避難訓練を実施しました。

校庭へ避難した学校では、整列後、学校長・副校長から避難訓練の講評がありました。その後、令和元年度以来4年ぶりに保護者による引取訓練を実施し、多くの保護者の方に御参加いただきました。

▼校庭への避難訓練（多摩川小学校）



▼校庭への避難訓練（第六中学校）



### (3) 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

訓練テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員及び地区協議会\*等の地域の方（自治会・地域学校協働本部\*のコーディネーター・調布市防災市民組織\*含む。）との協働により、令和元年東日本台風（以下、令和元年台風19号と表記）における避難所開設時の課題や感染症対策を踏まえた訓練を実施しました。

#### 【訓練内容】

開錠・施錠方法等確認（校門・校舎・体育館）、建物利用調査、マンホールトイレ設置・撤去、防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し、調布エフエム放送受信訓練、感染症考慮時における避難所利用計画\*を用いた図上訓練、防災行政無線受信・送信訓練、避難所開設・受付訓練、簡易トイレ体験、振り返り

#### 【訓練参加者数】

864人（市職員510人・教員35人・地域住民319人）

##### ▼図上訓練



##### ▼感染症対策を踏まえた避難スペース設置訓練（1区画：約1.8m×1.8m）



\***地区協議会**：地区協議会は、小学校の学区をエリアとして、地域で活動する自治会や学校関連団体などにより構成されたネットワーク組織で、令和5年8月現在、市内全20の小学校区中、18の小学校区に設立されている。防災については、特に全地区共通の課題として捉えられており、避難所運営マニュアルの策定や、調布市防災教育の日における協力など、積極的な取組がなされている。

\***地域学校協働本部**：学校支援活動をはじめとして、幅広い地域住民等の参画を得ながら、「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み。調布市では、令和3年4月に全小・中学校で「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるよう体制を整備した。

\***調布市防災市民組織**：自治会やマンション管理組合等の下部組織として、災害時の被害防止・軽減に係る活動と防災意識の啓発活動を行い、自助・共助の取組を推進していただく団体。「自分たちのまちは自分たちで守る」を基本理念として、市内各地域において活躍されている。

\***感染症考慮時における避難所利用計画**：感染症考慮時においては、避難所では避難者相互のスペースを保ち、発熱等の症状がある避難者の動線を分ける必要がある。本計画は避難者の避難場所や動線を示したものの。緊急対応として市職員が中心に作成したが、地域の方々との意見交換等を踏まえ、改善を進めている。

▼防災備蓄倉庫確認（調布中学校）



▼防災行政無線受信・送信訓練



### 3 新型コロナウイルス感染症対策について

学校教育活動（「命」の授業・防災啓発講話）は，保護者・地域の方への公開を中止しました。

### 4 連携・協働の取組について

#### (1) 調布消防署との連携

調布消防署には，初年度の平成24年度から地域・保護者への啓発講話の講師等をお願いしています。

輪番校として定める5校（杉森小学校，飛田給小学校，柏野小学校，第七中学校，第八中学校）に対して，署員並びにVR防災体験車，まちかど防災訓練車，起震車等の車両を派遣していただき，参加・体験型の授業を実施していただきました。今年が関東大震災から100年が経過した節目の年に当たることから，大震災の教訓等も児童・生徒に伝えていただきました。

また，地震をテーマに小学校低学年，中学年，高学年・中学生向けに分けて作成いただいた防災啓発講話（録画）を，実施希望校（12校）において視聴しました。

▼VR防災体験車による被災疑似体験（杉森小学校）



▼まちかど防災訓練車による消火訓練（飛田給小学校）



▼起震車体験訓練（第七中学校）



▼煙体験訓練（第八中学校）



## (2) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

水害をテーマに小学校低学年，中学年，高学年，中学生向けに分けて作成していただいた防災啓発講話（録画）を，実施希望校（10校）において視聴しました。

▼防災啓発講話視聴の様子（多摩川小学校）



▼防災啓発講話視聴の様子（第五中学校）



## (3) 地域との協働（市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の実施）

地区協議会等の地域の方（令和4年度から地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も参加）と市職員が協働で訓練を実施しました。当日は，市立全小・中学校及び大町スポーツ施設を会場として，建物利用調査やマンホールトイレ設置・撤去訓練，体育館での避難所開設・受付訓練等を実施しました。

▼地域との協働による訓練（第三小学校）



▼地域との協働による訓練（飛田給小学校）



▼地域との協働による訓練（多摩川小学校）



▼地域との協働による訓練（染地小学校）



**(4) NPO法人調布心身障害児・者親の会、調布市福祉作業所等連絡会との協働**

NPO法人調布心身障害児・者親の会、調布市福祉作業所等連絡会（当日は、しごと場大好き・らぷらんど調布・アイビーキッズ布田の3団体参加）の方々についても、地域の方や市職員が実施する避難所開設訓練（第二小学校）に参加していただき、災害時避難行動要支援者の立場から御意見をいただきました。

**(5) 一般財団法人調布市市民サービス公社との協働**

一般財団法人調布市市民サービス公社、福祉健康部との協働により、西部地域福祉センター、金子地域福祉センター、緑ヶ丘地域福祉センター、下石原地域福祉センターにおいて福祉避難所開設訓練を実施しました。当日は、震災時における福祉避難所開設の流れ、福祉避難所本部の運営体制などを確認しました。

**▼福祉避難所開設訓練（緑ヶ丘地域福祉センター）****▼福祉避難所開設訓練（緑ヶ丘地域福祉センター）**

**(6) 市内都立・私立学校との連携**

市内都立・私立学校の7校に御協力いただき、防災教育の日と連携した取組として避難訓練等を実施いただきました。なお、市内都立・私立学校における取組は、防災教育の日と同日の4月の第4土曜日に限らず、周辺の日程で実施いただきました。

▼訓練等の概要

(人)

| 実施校                | 訓練の概要   | 参加者数  |
|--------------------|---|-------|
| 東京都立調布北高等学校        | 全校生徒を対象とした避難訓練，第1学年を対象とした防災訓練（放水訓練，救出訓練），講話受講（調布消防署深大寺出張所の指導），ホームルームで振り返りシート作成を実施（4月18日実施）                                    | 570   |
| 東京都立調布南高等学校        | 全校生徒を対象に，午後2時25分管理棟4階調理室からの出火想定で，校舎にある7カ所の出口から12の経路を利用してグラウンドへ避難を実施。副校長の講評後，グラウンドから外への経路及び出口の確認と防災備蓄倉庫の所在確認を実施（4月19日実施）       | 751   |
| 東京都立神代高等学校         | 全校生徒を対象とした避難訓練（地震訓練），救助シミュレーションを実施（5月17日実施）   | 906   |
| 明治大学付属明治高等学校・明治中学校 | 全校生徒を対象に，午後0時10分1階カフェテリアからの出火想定で，火災探知機による校内放送と避難訓練実施。グラウンドへの避難後，調布消防署員の講話を受講（4月25日実施）   | 1,435 |
| 晃華学園中学校高等学校        | 全校生徒を対象に，3時間目の途中に大規模な地震が発生した設定で避難訓練を実施。校庭への避難後，担当教諭による講評を実施。避難訓練時に，災害時緊急連絡システムを利用し，保護者が学校に引き取りに来る予定時刻を連絡（実際の引き取りは未実施）（5月9日実施） | 931   |
| 桐朋女子中学校・高等学校       | 地震及び職員室で火災が発生したことを想定し，避難訓練を実施（5月31日実施）  | 1,750 |
| ドルトン東京学園中等部・高等部    | 中学1～高校2年生を対象に，5限目に地震を想定した避難訓練を実施（4月14日実施）   | 590   |
| 計                  |   | 6,933 |

▼避難訓練（明治大学付属明治高等学校・明治中学校）



▼避難訓練（ドルトン東京学園中等部・高等部）



## (7) 市内企業との連携

スターツCAM株式会社の協力により、起震車及びスタッフを派遣していただきました（富士見台小学校）。

▼起震車体験（富士見台小学校）



▼起震車体験（富士見台小学校）



## (8) 市長部局各部との連携

初動要員<sup>\*</sup>、避難所担当職員<sup>\*</sup>、学校避難所対応職員<sup>\*</sup>、管理職職員が各小・中学校及び大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を実施しました。また、令和5年度新規採用の職員が市統一テーマ訓練に参加し、訓練後には、消防大学校において地域防災に関する訓練に参加しました。

## (9) その他

フードロスの観点や児童・生徒への防災教育の一環として、防災備蓄倉庫にある今年度入替予定のアルファ米を防災教育の日前後の日程において市立小・中学校の給食で提供しました。また、アルファ米が1人分の小分けされたパックに変更されることに伴い、深大寺小学校児童が、災害時を想定し、防災備蓄倉庫にある水を使用してアルファ米の調理を体験しました。

▼当日の給食の様子



▼災害時の備蓄食料「アルファ米」の調理体験の様子



**\*初動要員**：休日・夜間時に災害が発生した際、市災害対策本部設置までの間の情報収集と応急対策活動を展開するための体制として、市内に居住する職員の一部を、初動要員（初動本部員及び避難所初動要員）として指定しており、担当する避難所（学校）の防災備蓄倉庫の鍵を保持している。

**\*避難所担当職員**：開庁時に災害が発生した際や避難を要する期間が長期にわたる場合に、避難所の開設・運営を行う職員として、避難所担当部（市民部・子ども生活部・福祉健康部・教育部）内において指定している。

**\*学校避難所対応職員**：避難所（学校）の体制強化を図るため、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員（正規・再任用職員の用務員・給食調理員・栄養士及び教育部教育総務課雇用の会計年度任用職員（用務員・給食調理員・事務））を学校避難所対応職員として指定（令和5年度から教育部学務課雇用の会計年度任用職員（学校栄養士専門員・技能補助員（応援給食調理員））を追加）している。

## ◆参加者数の推移

▼平成24年度（実施初年度）及び平成28～令和5年度の参加者数推移（人）

| 参加者区分  | H24           | H28           | H29           | H30           | R元            | R3            | R4            | R5            |
|--|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 学校（教職員<br>※1、児童・生徒※2）                          | 14,853        | 15,838        | 15,903        | 15,921        | 15,947        | 16,685        | 16,967        | 17,097        |
| 保護者  | 10,223        | 13,030        | 13,334        | 13,616        | 13,836        |               |               | 12,002        |
| 地域   | 1,728         | 1,236         | 1,010         | 957           | 660           |               | 289           | 319           |
| 市職員（避難<br>所担当職員*<br>3・初動要員・<br>学校避難所対<br>応職員等） | 90            | 224           | 313           | 311           | 313           | 490           | 510           | 510           |
| 消防※4・警察<br>職員※5                                |               | 109           | 136           | 128           | 114           | 43            | 45            | 31            |
| <b>合計</b>                                      | <b>26,894</b> | <b>30,437</b> | <b>30,696</b> | <b>30,933</b> | <b>30,870</b> | <b>17,218</b> | <b>17,811</b> | <b>29,959</b> |
| 前年度比増減   |               | +906          | +259          | +237          | ▲63           | ▲13,652       | +593          | +12,148       |

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※1 各年度実施日当日の在籍教職員数

※2 各年度5月1日現在の在籍児童・生徒数

※3 本部要員を含む。

※4 消防団員を含む。

※5 警視庁職員を含む。

なお、上表に、調布市内の東京都立高等学校及び私立学校の参加者数（P.10(6)の表）は含んでいない。



## 1-3 令和5年度事業の総括

### より実効的な防災・減災の取組へ

東日本大震災の発生から12年が経過しましたが、この間も地震や豪雨、台風などの自然災害が日本列島を襲い、令和元年台風19号では、調布市でも多くの家屋が浸水し、市制施行後初めて避難勧告を発令して多くの方が避難所に避難されました。

地形の特性上、日本のどの地域においても地震や豪雨、台風などの自然災害が発生する可能性があります。しかし、災害の教訓から学び、備えることはできます。

災害から身を守り、被害を少なくするうえで最も大切なのは、自らが自らの命を守れるよう、普段から意識を持ち、備蓄を行い、家族と避難方法や集合場所を確認するなど、万全の準備と対策を行っておくことです。そして、いざ避難することとなった場合に備え、避難所となる学校等において、普段から教職員、市職員、消防、警察や地域の方々との連携を図り、訓練を積み重ねておく必要があります。

「調布市防災教育の日」は、令和5年度で11回目の実施となりました（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業のため中止）。

令和5年度は、事業実施日が新型コロナウイルス感染症5類移行前の期間であったため、感染拡大防止の観点から、予定していた事業の一部を中止しましたが、学校教育活動においては、令和元年度以来4年ぶりに保護者による引取訓練を実施しました。また、避難所開設訓練では、「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を市統一テーマとし、昨年に引き続き、市職員及び地区協議会等の地域の方との協働による訓練を市内各小・中学校28校及び大町スポーツ施設で実施しました。

首都直下地震や記録的豪雨などによる大規模な災害時においては、一定期間、電気・上下水道・ガスなどのライフラインや物流が途絶える可能性があります、相当な混乱が予想されます。避難所の生活は非常に厳しく、市職員だけでなく、その場にいる全員が当事者として協力し、互いに支え合うことが重要となります。

平常時から、災害時の状況を想定した訓練を実施し、市民、学校、関係機関が一堂に会してお互いの顔や課題を確認し合うという点において、調布市防災教育の日は一定の成果を重ねてきました。しかし、近年の自然災害を踏まえた訓練内容の見直し、感染症対策といった新たな課題や、さらなる防災意識の啓発、関係機関との円滑な連絡・調整など、改善すべき課題も少なくありません。

来年度以降も、引き続き、市・学校・地域・関係機関がそれぞれの役割を発揮し、災害時に適切な対応が行えるよう、連携・協働により、訓練の充実を図ってまいります。



## 第2章

### 市統一テーマ訓練

### 「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

**ねらい** 東日本大震災、令和元年台風19号等の教訓を生かすとともに、新型コロナウイルス感染症対策を講じる

- ◎「不測の事態への備え」と「不断の備え」を怠らない
- ◎避難所開設・運営訓練に関する対応能力の向上・意識啓発に向けた効果的な訓練の実施及び地域との協働，学校・関係機関との連携の強化



市統一テーマ訓練（マンホールトイレの設置，飛田給小学校）

※本章に掲載した職員からの意見等については，原則として原文のまま掲載しています。ただし，編集の都合上，括弧書きで補足している場合や個人名等に関する記述を省略している場合があります。

## 2-1 市統一テーマ訓練

### 「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」の概要

災害発生時には、調布市地域防災計画に基づき、市職員による災害への対応を行います。市役所開庁時には避難所担当職員が、休日・夜間など市役所閉庁時には、初動要員が避難所となる学校に参集し、避難所の開設や運営などの対応を行います。また、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員を学校避難所対応職員に指定(令和5年度からは、教育部学務課雇用の会計年度任用職員(学校栄養士専門員・技能補助員(応援給食調理員)を追加)しています。発災時には避難所担当職員や初動要員とともに避難所の開設や運営などの対応を行います。

このため、調布市防災教育の日では、平成30年度から市統一テーマを定め、市立全小・中学校(大町スポーツ施設を含む。)において、地区協議会等、地域の方と協働による訓練を実施しています。

平成30年度及び令和元年度の2年間の市統一テーマは「避難所におけるトイレの確保・管理」と題し、各避難所の災害時のトイレの状況を確認し、災害時に使用するマンホールトイレ・組立トイレの設営訓練を行うとともに、避難所におけるトイレの課題を共有しました。

また、令和3年度以降は、市統一テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため中止、令和3年度は市職員のみで実施)。

#### ◆訓練の概要

市統一テーマ訓練を「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、発災時における避難所の「円滑な初期対応」を習得するための訓練を行いました。

#### ▼目的、内容等

|       |  |
|-------|--|
| 実施日時  | 令和5年4月22日(土) 午前8時45分から午後0時15分まで  |
| 参加職員  | 合計864人(各部管理職・避難所担当職員(教育部, 市民部, 福祉健康部, 子ども生活部)・初動要員・学校避難所対応職員等510人, 教員35人, 地域住民319人)  |
| 訓練の目的 | 令和元年台風19号の避難所開設時における課題を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設訓練を実施することで、発災時に円滑・適切に避難所開設・運営が行えるようにする。  |
| 訓練の内容 | 開錠・施錠方法確認(校門・校舎・体育館), 建物利用調査, マンホールトイレ設置・撤去, 防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し, 調布エフエム放送受信訓練, 感染症考慮時における避難所利用計画を用いた図上訓練, 防災行政無線受信・送信訓練, 避難所開設・受付訓練, 簡易トイレ体験, 振返り |

## ▼タイムスケジュール（例）

| 時刻                  | 訓練内容                    | 訓練詳細  |
|---------------------|-------------------------|---|
| 8:45                | 集合                      | ・避難所担当職員のリーダーを中心に出席確認，自己紹介，訓練の流れの確認   |
| 9:05                | 開錠・施錠方法の確認（校門・校舎）       | ・「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に，校門・校舎の開錠・施錠方法を確認                             |
| 9:20                | 建物利用調査                  | ・避難所としての使用可否を判断するため建物外観・内部で確認するポイント等を確認                                     |
| 9:35                | マンホールトイレ設置・撤去           | ・災害時のトイレ対策・設置場所の確認，トイレ設置後に仮想の汚物（トイレトーパー）・水注入，撤去                             |
| 10:05               | 防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し         | ・避難所開設初動期に使用する物品を中心に備蓄品の確認及び物品持ち出し  |
| 10:25               | 開錠・施錠方法の確認（体育館・照明・空調設備） | ・「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に，体育館の開錠・施錠方法，照明・空調設備の電源確認                     |
| 10:30               | 調布エフエム放送受信訓練            | ・備蓄資機材のラジオ付懐中電灯を活用し，受信確認  |
| 10:35               | 図上訓練                    | ・避難所利用計画図を用いて総合案内の場所，各受付・避難場所（一般避難者，要配慮者，発熱者等，ペット），避難者の動線，避難場所として使用できる教室を確認 |
| 10:40               | 防災行政無線受信訓練              | ・避難所運営本部（教育総務課）から各避難所へデジタル防災行政無線を用いて一斉連絡                                    |
| 10:45               | 避難所開設訓練                 | ・体育館でレジャーシート1枚分（約1.8m×1.8m）を1区画とし避難スペースの設置・受付の設置                            |
| 11:00<br>～<br>12:00 | 防災行政無線送信訓練              | ・各避難所から避難所運営本部（教育総務課）に対し，防災行政無線グループ通信を用いて，各避難所の混雑状況・被害状況等を報告                |
| 11:10               | 簡易トイレ体験                 | ・体育館のトイレを使用して携帯トイレ体験を実施（石原小学校・調和小学校は，体育館近くのトイレで実施）                          |
| 11:25               | 受付訓練                    | ・運営役と避難者役に分かれ，受付訓練を実施   |
| 11:40               | 振り返り                    | ・全体で訓練の振り返りを実施  |
| 12:00               | 片付け・消毒・終了連絡             | ・アルコール消毒液で使用した物品等の消毒を実施<br>・緊急対応用携帯電話を用いて避難所運営本部（教育総務課）へ訓練終了を報告             |
| 12:15               | 訓練終了                    |   |

## ●集合

初動要員・避難所担当職員・学校避難所対応職員及び地域の方は，集合時刻に，担当している避難所（学校）に参集（調布市では，第3非常配備態勢\*の場合，全職員が災害対応に当たることとされています）しました。

調布市教育会館では，各避難所からの情報集約や必要事項を連絡するため，避難所運営本部（教育総務課）を設置しました。

\*第3非常配備態勢：調布市の防災大綱である「調布市地域防災計画」に定められている，市職員の配置基準のうち最大レベルの態勢で，調布市において震度6弱以上の地震が発生した場合など，大規模な災害が発生した場合に発令され，全職員が災害対応に当たることとされている。

## ●開錠・施錠方法の確認(校門・校舎)～建物利用調査

午前8時45分に各避難所に集合した市職員（初動要員，避難所担当職員及び学校避難所対応職員）及び地区協議会等の地域の方（自治会の方・地域学校協働本部のコーディネーター・調布市防災市民組織の方を含む。）は，訓練の流れ等の確認をした後，「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に，校門や校舎の開錠・施錠方法を確認しました。続いて建物が避難所として使用できるかを確認する建物利用調査（令和5年度は，建物外観のみ実施）を行いました。

### ▼校門の開錠・施錠方法の確認



### ▼建物利用調査の様子



## ●マンホールトイレ設置・撤去訓練～防災行政無線受信訓練

災害時におけるトイレ対策の確認として，令和元年度以来4年ぶりにマンホールトイレの設置・撤去訓練を実施しました。マンホールトイレ設置後は，水を注入し，仮想の汚物としてトイレットペーパーをマンホールトイレに流し，トイレットペーパーが流れているか確認を行いました。その後，設置したものの撤去を行いました。

続いて，防災備蓄倉庫へ移動し，格納されている備蓄品の確認を行った後，避難所開設に必要な物品を持ち出しました。体育館の鍵の保管場所，体育館の開錠・施錠，照明・空調設備の電源場所の確認を行いつつ，備蓄資機材のラジオ付懐中電灯を活用し，調布エフエム放送の災害時訓練放送の受信確認を行いました。その後は，体育館に移動し，図上訓練として，校舎の避難スペースや避難者動線を記載した避難所利用計画の確認を行いました。図上訓練の間には，避難所運営本部（教育総務課）から各避難所に対し，防災行政無線のグループ通信で一斉連絡を行いました。

### ▼マンホールトイレ設置訓練



### ▼図上訓練



## ●避難所開設訓練～振り返り

防災備蓄倉庫から取り出した備蓄品を用いて、体育館に一般避難者用受付や、レジャーシートを活用し、感染症を考慮した人との間隔を確保した避難スペースを設置しました。

避難所開設後、体育館のトイレを使用（石原小学校・調和小学校は、体育館近くのトイレで実施）し、携帯トイレ体験を行いました。その後、運営役と避難者役に分かれ、避難者名簿を使用した受付訓練を行いました。訓練の間には、各避難所から避難所運営本部（教育総務課）に対し、防災行政無線のグループ通信で避難所の混雑状況・被害状況等を報告しました。

その後は、全体で訓練の振り返りを行いました。

### ▼感染症対策を踏まえた受付設置・受付訓練 （手指消毒，検温等）



### ▼感染症対策を踏まえた避難スペース （1区画：約1.8m×1.8m）の設置



## ●緊急対応用携帯電話を用いた通信訓練

訓練終了後は、各学校に設置をしている緊急対応用携帯電話を使用して避難所運営本部（教育総務課）に訓練終了の報告を行い現地解散しました。

### ▼緊急対応用携帯電話



### ▼避難所からの報告訓練（避難所運営本部・ 教育会館 教育部教育総務課）



## 2-2 訓練参加職員からの意見等について

訓練に参加した職員から、以下の意見が出されました(協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています)。

出された課題を検討し、検討結果については、地区協議会連絡会、防災教育の日の説明会等を通じて、地域の方や市職員等と共有し、次回以降の訓練へ反映するなどにより、発災時の迅速かつ適切な対応に繋げることとします。

| 番号 | 項目            | 意見等  |
|----|---------------|--|
| 1  | 地域との協働・学校との連携 | 地域の方、学校職員教員とも意識が高く、自分事として「実際に避難所を開設した場合にどう行動するか」を考えてくださっていた。「地元の方の協力を得られれば、避難所に車で来てしまった人の駐車場所を確保できる可能性がある」という地域の方のお話は、心強く感じた。職員も積極的に、訓練の重要性を口にしていた。  |
| 2  |               | 昨年と同様に地域の方の参加が多く見られた。避難所の開設、受付訓練等を通じて避難所運営の課題を共有することができており、地区協議会をはじめ地域の皆様の防災意識の高さを改めて感じました。  |
| 3  |               | 全体を通して、リーダーのもとで、地域の方々と協力し、スムーズで有意義な訓練ができた。一方抽出された課題も多く、一つ一つ解決していかなければならないと感じた。   |
| 4  |               | 地域の方への説明や機材設置などの際に消防団員の方に協力いただき、訓練がスムーズにできた。避難所設営運営にはOBも含め協力が欠かせないと感じた。  |
| 5  |               | ●●小学校地域の方々の防災意識は非常に高く、プレ事前説明会で地域の方と訓練内容を協議し本訓練を取り組んだ。その結果、本番を想定した訓練ができたうえ、参加者からいろいろなアイデアや課題点の抽出の機会につながった。よって、訓練内容の難型(スケジュール)はありつつも、地域の方の意見を取り入れながら柔軟に訓練を行うことは、非常に効果的であると思う。引き続き、●●小学校の訓練ではこの考えを活用しつつ、地域と連携を図れるようにしていきたい。 |
| 6  |               | 地域の方々が大変協力的で助かった。半面、気を利かせてどんどんやってしまうので、実施手順の交通整理が必要であり、一部に混乱が生じた。リーダーのリーダーシップが重要と感じた。  |
| 7  |               | 当日、●●中OBで防災士の●●様が、講演後、途中から、合流していろいろとアドバイスをくださった。活動している中で、専門家の意見をもらえるのは有意義だと感じた。  |
| 8  |               | 参加いただいた自治会の方は、非常に協力的であった。  |
| 9  |               | 学校関係者との協力体制の強化を図るうえで、例年は最後に校長先生からの挨拶をいただいている。今後は、協働による作業の実施など訓練における現場での情報交換が実施できるとありがたい。   |
| 10 |               | 防災訓練のフィードバックを地域へ情報共有してほしい。   |
| 11 |               | 受入人数体制、防災倉庫の備蓄量等、避難所の現実を地域の人々に知ってもらう必要がある。(体育館に70人程度しか収容できないことやペットの受入れが可能であること等、知らなかったとのこと)  |
| 12 |               | 【●●自治会 ●●さん】から要望。<br>初動要員の個別の連絡先を自治会に教えてほしい。<br>緊急時、初動要員が参集していない場合など、自治会で対応するため知りたいとのことでした。  |
| 13 |               | 地域の方には避難所はペット同伴はダメと考えている方が多いとのことなので、ペット可能との情報提供が必要と思われる。   |
| 14 |               | 都立●●高校の避難所の情報が全くなく、避難所担当リーダーとなっても、何もできない状況。どこまで話ができているのか。実際に避難所開設が必要になったときに、現時点で、何がどこまで避難所担当職員や初動要員に求められているのか知りたい。例えば、学校職員や都の職員はどこまで関わるのかや、防災倉庫の有無を教えていただいたり、校内図をいただき、図上訓練だけでもできるとイメージが付きやすいなと思います。                      |
| 15 |               | 地域の方から各担当リーダーを指名し、リーダーからスタッフを集い訓練を実施。なお、地域の方でリーダースタッフ用のビブスを作成しているため、活用した。本訓練での主な係は設営誘導案内。  |
| 16 |               | ●●様から●●小学校のビブスのアイデアはすごく良い。この取組みは他の小学校や施設でも活用されると良いと思うと申し出あり。なお、スタッフはビブスではなく腕章がいいのではないかと助言あり。   |
| 17 |               | 地域で用意したビブスを着用して訓練を行った。それぞれの係で、市のリーダー、地域のリーダーを決めて、協力し意見も出し合いながら主体的に訓練を実施することができた。視察していた教育委員から、当取組を全校に広めた方がよいとの意見があり、ビブスが難しければ腕章のようなものでもよいのではないかと意見があった。   |
| 18 |               | 地区協議会の方からは、もっと地区協議会を含めた市民を活用して欲しいとのご意見がありました。また、以前は学校の鍵も地域の方が持っていたが、現在は持っていない。実際に災害等何かあった際は、住民が活動しなければならぬ。そのことを市側はもっとわかって欲しい。  |
| 19 |               | 初動要員が早急に到着できない場合には、地域の人達が先に避難所に到着するが、防災備蓄倉庫の解錠は職員となっていることから、備蓄品の利用がすぐにはできない可能性がある。地域の人にも解錠できるようにして欲しいとの要望が上がった。  |
| 20 |               | 初動要員に、鍵が渡っていなかった。早急に対応願いたい。  |



| 番号 | 項目            | 意見等  |
|----|---------------|--|
| 21 | 地域との協働・学校との連携 | こういった、シミュレーション体験は実地訓練だから、近隣団体が強制的にでも参加しないと初動は近隣住民なので、自分たちが困ることになるのではないかと。  |
| 22 |               | 避難所近傍に居住する初動要員は限られており、いつ起こるかかわからない震災を想定すると、市職員のみで避難所の開設準備を行うとなると、避難者の受入れまでに時間を要することを懸念する地域住民の声が多かった。避難者の受入れのタイミングについて、混乱を避けるための準備に時間をかけるか、スピードを重視するかのバランスが難しいと感じる。   |
| 23 |               | 地区協の方にもぜひ参加してほしいと要望あり。   |
| 24 |               | 発災時にまず避難して来るのは地域住民であり、初動要員を待ってられないことから、訓練には地域住民を強制的に巻き込むべき。昨年度も指摘したが、改善されてなかった。  |
| 25 |               | 地域の方からは、実際の災害の際には市職員の参集は難しく、市職員の参集を待ってからの避難所開設は現実的ではないのではないかとの声があった。市職員の取組への感謝をいただきつつ、どれだけ地域住民の関心を喚起し、避難所運営に関与してもらえるかが重要であるとの意見があった。   |
| 26 |               | ●●小と●●中では地区協の人員は毎年交替して実施している。情報共有にもなるため他の学校でも実施したらよいのではないかと。   |
| 27 |               | ●●小健全育成は●●小とは関係性を築けているが、●●中とはあまり関係性を築けていないとのことであった。今回、新たな校長先生が着任されたため、今後、●●中学校と関係性を築いていきたいとの意見があった。  |
| 28 |               | 学校が授業実施日に行なっているため、学校や地域住民と連携して訓練ができると、より効果的に実施できると感じた。   |
| 29 |               | ●●小学校との連携する訓練が必要。  |
| 30 |               | 今回も地域住民の参加は少なく、地域や学校による違いが大きい。学校の先生は午前の授業や帰宅訓練が重なるため参加が難しいのではないかと。   |
| 31 |               | 地域の方々から、医療体制への不安が述べられた。災害時、医師会でも体制を組んでいると思うが、うまく連携しないと意味がないとのこと。   |
| 32 |               | 初動で近隣住民が来たときに見れるようペーパーを作成して、倉庫に設置しておくとうい。  |
| 33 |               | 避難所の開設が決まった時から地域の方にも手伝ってもらえるよう、避難所の設営に必要な情報を書き込んだ学校の図面を地域に配付すべきとのことご意見あり。防犯上の都合から学校の図面配付には課題があること、ただし図面情報を建物の外線程度に留め、避難所の入り口や総合受付の場所を示す等すれば、初動の混乱を抑えられる可能性はある等の意見交換を行った。   |
| 34 |               | 団地内では、在宅避難(?)を推奨しているがボランティアとして避難所にくるべきなのかと質問があり、ボランティアとして動けるようだったら避難所に来て欲しい。地域の方々にも、そういう考え方になってもらうように今後伝えていくと地域の方が回答した。  |
| 35 |               | 数日前に地区協会長から連絡があった。4年生3クラスの1時限授業を受け持つことになり、倉庫、マンホールトイレを使用することになったとのこと、その間は倉庫付近は使えなかったため時程を大幅に変更した。  |
| 36 |               | 前年度リーダーからの反省を踏まえ、事前に職員に担当を割り振ったため、各自が予習を行い率先して動いてくれたため、思いのほかスムーズな訓練ができたと感じている。時間もかなり早く終わり、職員同士の反省の時間ももてた。  |
| 37 |               | 事前の研修や説明会から当日までの日にちが短く、また自分自身(避難所リーダー)が4月に異動で業務多忙となり、また避難所の配置場所が異動により勤務地から離れてしまったこともあり、事前に倉庫内や訓練場所内容等の確認に学校に行くことが難しかった。今回は学校との調整は説明会での確認と電話での調整のみとなってしまうが、当日は早めに来校して倉庫内の確認をしているので、可能であれば簡易的なものでよいので、防災倉庫の入口等に当日使用する道具について、配置場所を具体的に掲示しておいてもらえると、限られた時間での確認進行がスムーズにできて助かります。また、配付資料(パワーポイント資料)も、より細かく具体的に記入していただくと、当日指示を出すときにも細かい説明をせずに、サブリーダーや各参加者が資料で内容を把握し対応してもらえることも多いので、助かります。 |
| 38 |               | 今回急遽●●中学校の避難所リーダーになり、●●中には行ったことも訓練に参加したこともなかったため、施設場所や無線の設置場所及び、従前の訓練の流れ(マニュアル外の避難所ごとの慣例的な流れ)などを把握しておらず円滑な訓練にあたっては支障をきたした部分があった。   |
| 39 |               | そもそもの避難所の割り当てについて、再考をお願いしたい。所属の課が変わった人は、前任者の避難所に割り当てられ、慣れていない所で苦勞している。しかし、同じ課内だと勤務地が変わっても元の避難所のままで、普段の勤務地から遠い所へ行かなくてはならないというのが矛盾している。通常は異動しても同じ避難所としておき、図書館の分館のように、地域に密着している施設は、施設単位でその避難所の担当として欲しい。また、報告で出した質問や改善要望について、回答が欲しい。   |
| 40 |               | 市民参加を前提とするなら、説明会、資料確認だけでは不十分です。事前に現地で職員のみでリハーサルを行うべきと考えます。今回のマンホールトイレ、前回の応急給水栓とも現地での作業に手間取り、市民からの信頼を損ないかねません。  |
| 41 |               | 各避難所によって、リーダーや初動指揮者の実施方法に違いがあり、過分にリーダーや初動指揮者の裁量に任せられる部分が多いと感じた。機械的にリーダーを割り当てるのであれば、避難所リーダーのマニュアル(リーダーと他の参加者の役割分担案、リーダーの指示事項等)が必要だと考えられる。地元参加者もいるため、不信感につながってしまうこともあるのではないかと感じた。  |
| 42 |               | 職員からマニュアルが膨大で、実際に避難所開設する場合にどのように動けるか不安だとの感想があった。実際の開設時にはすべてがマニュアル通りにはいかず、臨機応変に対応する必要があるが、職員は地域に指示等をしたりする役割を担うことになる。防災教育の日の流れの説明も必要だが、職員が避難所開設にあたっての心構えや基礎的な知識等を学ぶ説明会や資料があると、職員も少しは安心して従事できるのではないかと。  |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号 | 項目               | 意見等   |
|----|------------------|---|
| 43 | 事前の研修・説明会などの事前準備 | 避難所ごとの慣例的な訓練方法（地元参加者や学校職員と面識があり意思疎通が取れている初動指揮者が主体的に進める等）に合わせながら進めるやり方を重視するのであれば、事前に、リーダーと初動指揮者の打合せの場を設定する必要があると考えられる。   |
| 44 |                  | 事前説明会に参加していない地域の方から、事前説明会資料が欲しいと言われた。当日のリーダーセットの中に何部か用意しておいてもらいたい。そもそも事前説明会の際、地区協議会の人は●●ではなく●●小学校の方に参加するため、訓練当日、地域からだれが参加するのか、何人ぐらい参加するのか把握できず、地域との協働、連携という点で不十分であると感じた。                                |
| 45 |                  | ●●は、小中学校に設置される他の避難所と異なる点が多い（トランシーバーや優先携帯が装備されていない。防災倉庫が他と共用など）が、事前説明会資料にはその説明がない。施設に事前連絡した際に初めて分かったことが多く、訓練にあたって不安を感じた。事前説明会の説明も、「前年度と同じため割愛します」と説明が省略されてしまった個所が多かったが、昨年度参加していないものとしては省略せずにちゃんと説明してほしい。 |
| 46 | 開錠・施錠方法確認        | 備蓄倉庫横の体育館裏手の木箱に鍵が収納されている。備蓄倉庫、備蓄倉庫前の門の鍵が入っていることを情報共有できた。木箱を開ける南京錠が回しづらいなどの課題の共有を図れた。  |
| 47 |                  | 以下、市民からの意見あり。<br>校舎の開錠はセコムカードキーでおこなうが、停電時に開錠できるかとの質問が市民からあった。当職が事前に総合防災課に確認して「開錠可能」と回答したが、学校用務員さんは「開錠不可」の認識であった。情報が異なるため所管部署から情報提供を求む。  |
| 48 |                  | 参加者から停電時にセコムカードは使えるかと質問を受け、本部に確認しますと回答しました。防災行政無線についても、停電時に使用可能か確認したい。  |
| 49 |                  | 体育館のセコムは、停電でも動作するか確認が必要。  |
| 50 |                  | 既に記載したが、体育館の鍵は早急に対応してほしい。   |
| 51 |                  | 学校の体育館等を改修したため、鍵が変更されている。防災倉庫にある鍵は、使用できない。至急、学校と連絡を取り、鍵について確認してください。  |
| 52 |                  | 備蓄倉庫に体育館のセコムカードとあわせて鍵があったが、体育館の鍵とは異なるものであった。担当職員からは前回は異なっていて、その旨伝えてあるにもかかわらず、また今回も異なる鍵であったとのこと。当日は職員室にあるものを借用したが、避難所開設に当たり鍵の不一致については早急に対応していただきたい。  |
| 53 |                  | 正門の周辺には、ほぼ灯りがなく、夜間に来た場合開錠施錠が困難であることが考えられるため、ライトを設置してほしい。  |
| 54 |                  | 開錠施錠方法は？特に障害者などの場合は対応できるのか否かとの質問があった。   |
| 55 |                  | 体育館のセコムが無い側のドアのかぎが、倉庫にあるものと違っている確認が4月にとれているそうだが、改善したのか。   |
| 56 | 建物利用調査           | 地域学校協働本部コーディネーターから質問あり。建物利用調査で体育館が使用できないと判断された場合、恐らく校庭で待機してもらうことになると思われるが、風水害時など、悪天候時は、その後の迅速な対応が必要となるため、確認が必要である。  |
| 57 |                  | 参加者から建物利用調査については、画像を撮って本部に送付、そのうえで判断してもらうべきと意見を頂き、意見としてあげますと回答しました。   |
| 58 |                  | 建物調査時に危険個所に掲示する表示が見当たらなかった。   |
| 59 |                  | 建物チェック一覧用紙の様式が古いようだ。  |
| 60 | マンホールトイレ         | 水道や防災井戸から直接給水するためにホースを設置してほしい。水流がないと流れないため。（バケツでは困難）マンホールトイレの蓋がとりづらい。（指を挟めてしまいそう。）コツなどを資料に明記してほしい。  |
| 61 |                  | マンホールトイレ内に水をためるために使用するホースはどこにあるか分からなかった。また、外水道の栓がないので、水が出せない状況であった。   |
| 62 |                  | 外水道が使用できない場合は、防災用の井戸から水をくみ注水するかたちになると思われるが、井戸から注水口へ水を運ぶためのバケツ等の道具はあるのか？また、あればそれがどこに保管されているのか？   |
| 63 |                  | マンホールトイレの運用について、井戸水やプールの水を活用することになっているが、バケツリレーは現実的に無理ではないか。給水口も小さくバケツではうまく入れられないなど課題がある。揚水ポンプなどの配置や、市内業者などとの連携など考えるべきではないか。   |
| 64 |                  | マンホールトイレへの給水のために、水道から給水するためのホース及び防災井戸から給水するためのホースの用意を至急対応してください。  |
| 65 |                  | 給水栓をまわす方向や流すタイミング等を資料に明記してほしい。  |
| 66 |                  | 訓練時、トイレトーパーを少し使用して行ったが、バケツで10杯以上の水を溜めても流れなかった。また訓練時に使用した水は、屋上に溜まっている水であるため量に限界がある。震災の際は、近くのポンプ室から水を引くのが適当であると考え、太いホースが20m程度は必要。   |
| 67 |                  | 災害井戸の水をマンホールトイレに注入する手段が確保されていない。バケツでは数百回ほど水を運搬する必要があり、現実的ではない。  |
| 68 |                  | 水道が使用不可の場合は防災用の井戸から水を使用すると思われるが、現地で確認したところ水道の水量でも弱い印象を受けたことから、バケツリレーでの対応は非現実的と思われる。防災用の井戸からホースを引くなどの対応を検討していただきたい。  |
| 69 |                  | マンホールトイレ汚物の排水に必要な水の確保が重要であると感じた。上記にも記載しているが、水道が使用可能であれば、注水口に届く長さのホースが必要である。また、水道が使用不可能であれば、井戸等からバケツで持つこととなるため、注水口にジョウゴを設置して注水することが必要である。どちらにしても、マンホールトイレの設置及び運用には人手と手間がかかるため、効率良く運用できる方法を検討する必要がある。     |

| 番号 | 項目  | 意見等   |
|----|---|---|
| 70 | マンホールトイレ  | マンホールトイレについて、初期設定として、排水のパイプに水を残した方がいいのかとの質問があった。  |
| 71 |   | 下水管が破損すると、マンホールトイレが使用できなくなるため、その時の代替措置も検討するべき。  |
| 72 |   | マンホールトイレは蓋の開け閉めが一番の課題。ラジオの使い勝手が悪い（周波数があわせにくい。合っているかわからない）。備蓄倉庫のカギボックスの覆いが小さいため、ダイヤル錠が回しにくい。   |
| 73 |   | マンホール開栓作業に手間取り、多くの時間を要した。マンホールトイレや応急給水栓等の定期的な確認メンテナンスを行うべき。   |
| 74 |   | マンホールトイレの訓練において、マンホールの蓋を開ける工具が見つからず、なかなか開けることができなかった。工具については、防災倉庫の分かりやすい場所に設置する必要があると思われる。また、マンホールトイレについては定期的にメンテナンスした方が良いとの意見あり。                 |
| 75 |   | 日頃から定期的にマンホールの開閉をしておくべきとの意見。（マンホールの固着で時間を消費した。）   |
| 76 |   | マンホールトイレの脇に（校庭との境に）段差があるので、段差への注意を促す掲示が必要。また夜間使用時にも段差等の注意喚起ができるものが必要。   |
| 77 |   | マンホールトイレに車いす用のワイドテントを設置すると、テントが大きいため、テントの足が通路に大きくはみ出してしまい、段差もあるため注意が必要。   |
| 78 |   | マンホールトイレのテントの中は暗いが照明はないのかと質問を受け、別途ライトを設置できますと回答しました。  |
| 79 |   | 【仮設トイレのテント内の暗さについて】<br>夜は灯りがないと見えない。ランタンなどをおき明るさを確保しないと夜の使用が困難になる。また、トイレ内に生理用品のごみを入れるごみ箱や、ごみ箱設置が難しいなら、黒いミニサイズの袋があれば、使用者が生理用品をいれ、各自捨てるのが可能になると感じた。 |
| 80 |   | マンホールトイレの便座に設置するビニール（排泄物の通り道）がゴワゴワしていて実際に流れないのでは？また、替えが必要ではないか？   |
| 81 |   | マンホールの数（10ヶ所）とマンホールトイレの数が合わない。現在設置されている数（6基）は避難所に対して適切な数なのか？不足しているのであれば早急に対応して欲しい。  |
| 82 |   | 「●●小学校では10基のマンホールトイレを設置できるが、防災備蓄倉庫には6基分しかない。10基分備えておくべき。」   |
| 83 |   | マンホールトイレを使用した後の使用者の手洗いはどうするのか？（ウェットティッシュでふく？手指アルコールで消毒する？）  |
| 84 |   | マンホールトイレの設置について、職員は事前に組み立ての練習をしておいてもらい、訓練に参加してほしいとの意見。（時間がかかった。）  |
| 85 |   | マンホールトイレの近くの電柱に三又の分電盤が付いている電柱があるが、何の目的で設置されているのか教えて欲しい。   |
| 86 |   | 給水栓をまわす方向や水を流すタイミングなど、マンホールトイレの資材箱内にパウチしたものをに入れておいてほしい。   |
| 87 |   | マンホールトイレの設置については、実際に運用するには課題が多いと感じた。例えば、流すには相当量の水の注入が必要で、どのタイミングで誰が水を注入するかといったことや、蓋の管理をどうするかなど実際には決めなければいけないことが多いと感じた。                            |
| 88 |   | マンホールトイレの両サイドに設置されていた水道が常時開栓状態にあるにもかかわらず使用できなかった原因について早急に確認していただきたい。  |
| 89 | 下水の勾配がなく流れが弱い。  |   |
| 90 | マンホールに砂が詰まっていて開きにくい。定期的に砂を取り除く作業が必要。  |   |
| 91 | マンホールトイレの蓋に砂がかんできて固くなっていた。また、工具がコンテナ入り口のボックスにあることがわかりにくい。トイレの箱に場所を記載（印刷して貼るとか）しておくといいかもしれない。事前に学校職員に、蓋の開け閉めの確認をもらうと、工具の場所の確認を兼ねられるのではないか。 |   |
| 92 | マンホールトイレの蓋をあけるための器具給水栓をまわすための器具が必要なことを明示してほしい。  |   |
| 93 | マンホールトイレの近くの取水用の蛇口の栓が見つからなかったため、セットの近くに分かりやすく置くべき。また、マンホールトイレの蓋が本体にボルトで固定されているが、固定されたままだと、便座が設置しにくいので、ボルトを外すモンキレンチセットも備え付けておくべき。          |   |
| 94 | 災害用の水道から注水する際、蛇口に合うアタッチメントが備蓄倉庫になかった。このため、学校のホースを使用したけど、学校にも蛇口に合うアタッチメントがなく、水漏れがひどかった。災害時は水が貴重となるのが想定されるため、至急アタッチメントを備蓄倉庫に補充してほしい。        |   |
| 95 | マンホール蓋を開ける器具は学校用務員がいないと所在が分からなかったため、設置場所を倉庫内に掲示したほうがよい。   |   |
| 96 | マンホールの蓋を開ける工具について、設置場所を分かりやすくしてほしい。マンホールトイレについて、初期設定として、排水のパイプに水を残した方がいいのかとの質問があったので、統一したものをマニュアル等で周知する必要がある。                             |   |
| 97 | ネジや組立工具などがそろっていない。（細かい部品は専用の入れ物に入れておくべき。予備の工具やネジを入れておく。）  |   |
| 98 | トイレ組立に必要な六角レンチやねじが不足していた。後から確認したら、倉庫内に転がっており、必要な部品を確実に箱内にしまえるような工夫が必要。ガムテープで止める、ジッパー袋に入れる等  |   |
| 99 | マンホールトイレのホースとバルブが倉庫に見当たらない、マンホールトイレ2カ所の蛇口の形状が違いホース接続に不安。  |   |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号  | 項目   | 意見等  |
|-----|--|--|
| 100 | マンホールトイレ   | 設置に時間がかかるので、トイレテントがワンタッチで組立てできるようなタイプにできないだろうか。使用中かどうかの表示をどうするのか。仮設トイレのテント内の暗く夜は灯りがないと見えないと思います。ランタンなどで明るさを確保しないと夜の使用が困難になると思います。またトイレ内に生理用品のごみを入れるごみ箱や、ごみ箱設置が難しいなら、黒いミニサイズの袋があれば、使用者が生理用品をいれ、各自捨てることのできるなどの意見が出た。 |
| 101 |  | テントの組立てに際し、パイプ骨の「向き」や「番号」を入れるなど、誰でも歪なく組立てができるようにしてほしい。など、多数の意見要望があった。  |
| 102 |  | トイレ本体とテントが、同じ倉庫内であるが少し離れた場所に置かれており、設置時必要な物がわかりづらかった。セットにして置いておいてほしい。   |
| 103 |  | マンホールトイレに使用するテントを飛ばされないようにするための重しが必要ではないか。   |
| 104 |  | マンホール周辺の地面の留め具はどのように使用するのか？テントを止めるものであるなら、あれでは飛んでしまう。  |
| 105 |  | 設置場所周辺はかなり風が強く、テントが飛ばないように水を入れて重しにできるようなケースがあると良い。   |
| 106 |  | 転倒を防止する対策として、重りを付けるだけでは強風の時には心配であると質問を受け、他に安全に設置できる対策はないか本部と検討したい。また、障害者用のトイレが軽いので耐久性がよいものに変更できないか検討したい。加えて、ホースが劣化していたので、備蓄倉庫に新品を保管できるように本部と検討したいと回答しました。  |
| 107 |  | トイレの汚れは、一度付着すると汚くなる一方なので、一人ひとりがすぐにふき取って汚さないようにしていくことを意識させることが大切である。また、マンホールトイレには、必ず使い捨てのビニールを被せて利用してもらった方がよい。  |
| 108 |  | コンクリートに設置の際にペグがさせないので、その場合の対処方法を資料に明記してほしい。  |
| 109 |  | マンホールトイレの設置説明を聞いて良かった。可能なら防災課で設置方法の動画などをHPにアップしておけば前もってイメージがわくのではとの意見有。  |
| 110 |  | 組立てのマニュアルだけではなく、完成写真（途中経過含む。）がほしい。   |
| 111 |  | マンホールトイレの使い方、体育館壁に表示されたバルブの開閉の向きが逆だった。直さないと本番で混乱する。  |
| 112 |  | 倉庫から設置場所まで距離があり、女性一人や荒天時は運ぶのが難しいことが予想される。運びやすい箱に収納するか、保管場所を学校と協議のうえ倉庫以外のより近い場所へ変更するなどの対応を検討してはどうか。   |
| 113 |  | 当日、弓道場前にマンホールがあり、弓道場の使用と被って、動線が混乱した。弓道場の使用について、事前に、時間をずらすなどの対応が必要だと思われる。   |
| 114 |  | 実際に設置する時には、男女離れた場所に2箇所設置する必要がある。   |
| 115 |  | 雨天の際、仮設トイレを外で組み立てるのは困難。設置場所は、どこにすべきか？簡易トイレを多く用意していただいた方が良いとの意見あり。水洗トイレを使用できるかの判断は、何で判断するのか。逆流しないか心配。   |
| 116 |  | 事前に配られたバンクイックのマニュアルと実際のマニュアルが異なっていたので（マニュアルは洋式であり、実際は和式。）、実物に即したマニュアルを配布して欲しい。実物とマニュアルが異なっていたので、混乱し、より設置に時間を費やしてしまった。  |
| 117 |  | バンクイックは再利用するのか、確認して欲しいとの意見があった。  |
| 118 |  | ダンボールトイレの活用は如何か？検討しているのか？ 避難の状況（避難期間）にもよる。   |
| 119 |  | 水のあるなしにかかわらずトイレが重要であることを再認識した。   |
| 120 | 避難時にトイレが使えたとしても、避難の人数によってはさばききれないと思われるので、避難する人も紙おむつや紙パンツを用意するような啓発を行ったほうが良いのではとの意見有。 |  |
| 121 | 防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）   | 防災備蓄倉庫が2箇所（学校北側と南側）に分かれている。マンホールトイレ設置に必要なものも2か所に分かれているので、必要なものをセットにして整理して欲しい。  |
| 122 |  | 備蓄倉庫内の物が変わっていたり、新しい物が搬入されて通路がなく取り出せなくなっていたりする。常に使いやすくしておく必要がある。  |
| 123 |  | まずは倉庫整理、物の見つからなさを何とかしないと訓練にならない。地域からも、倉庫に案内し子どもに説明するにもこのままではまずいのではないかと意見があった。  |
| 124 |  | 災害時はスピード対応が必要だと思うが防災備蓄倉庫が縦長なので物品を探しづらい。必要性が高いものを前に置いておいた方がよい。  |
| 125 |  | 防災備蓄倉庫に入っている備品が備蓄倉庫扉裏面に貼り付けられていた配置図と異なっていたものがあり、取り出すのに手間と時間がかかったので、整理が必要である。   |
| 126 |  | 防災備蓄倉庫の中に入っているものの位置がわかりにくく、手間取った。整理が重要。ダンボールなどに大きな文字でわかりやすく書いておいてほしい。  |
| 127 |  | 倉庫の整理ができていない。リストと物品及びその位置も整合性がない。また、リストに載せている名前と物品の名前が合っていないためどれを使っているのか（どれが今回のマニュアルに記載されている使用物品か）わからない。   |
| 128 |  | 備蓄倉庫内に簡易トイレが見当たらなかったことは問題であるが、訓練で判明したことは幸いであったと感じた。  |
| 129 |  | 備蓄倉庫在内の備品と備品配置表の関連が分かりづらい。各団体の方でも意見が上がっているが、どうにかならないか？（文字が小さい等）  |
| 130 |  | 防災備蓄倉庫の段ボールに、中身の写真と内容物をしめす紙を貼っておくべき。荷崩れした場合には案内表示は機能しないし、段ボールに表示があれば最も分かりやすい。  |

| 番号  | 項目  | 意見等  |
|-----|---|--|
| 131 | 防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）  | 備蓄倉庫の使用目的について、物品をできるだけ詰め込むのか、出し入れ便利にするのかで違ってくる。ただし、大地震だと、いくら倉庫を整理しても結局崩れてしまう。  |
| 132 |   | 備蓄品リストと実際に保管されている物品の位置が大きく異なっている。また、物品リストの文字が小さくて見えづらいとの意見もあった。  |
| 133 |   | 倉庫内が品物が多すぎて雑然としている。どこに何があるか、棚などに表示をしてほしい。  |
| 134 |   | どこまでが●●の備蓄品なのかははっきりしない。区画をはっきりしてほしい。   |
| 135 |   | リーダーセットの物品が防災備蓄倉庫で見当たらず苦慮した。短時間で複数の訓練を実施しなければならないため、ひとまとめにしておいてほしい。  |
| 136 |   | 一緒に使う物はまとめておいてほしい。   |
| 137 |   | 給食室側倉庫の扉に、倉庫内の図画無かった。表示の見えにくい段ボールがあった。表示と図の整備が必要。  |
| 138 |   | 倉庫に人感センサーのライトが設置されているが、人が入るとつくがしばらくすると消えてしまい暗くなるので、作業を続けていると暗くなってしまふ。ずっとライトがついている状況にできないか。また人感センサーライトの操作の仕方が分かるとうい。  |
| 139 |   | 倉庫内にあった手持ちライト（あかりん棒？）のライトが倉庫内の物品を確認するには暗く使用しづらい。   |
| 140 |   | あかりん棒の電池の交換をしていないのでは？（倉庫内点検時にしていなかったもので、後ほどリーダー等で交換。）  |
| 141 |   | 緑色の懐中電灯は壊れているようだが、古くなっているのではないか。交換か処分を。  |
| 142 |   | 倉庫に人感ライトがあると良いが、電池交換や漏電などの課題があるかもしれない。   |
| 143 |   | 照明（ライト）の個数が足りない。夜間とかは不十分ではないか？また、充電は定期的に行う必要があるのか？その場合は誰が行うのか？調布エフエム放送の操作方法や防災行政無線送信の方法について、誰が担当しても取扱えるようにマニュアルをわかる場所に設置してほしい。体温チェックが必要ならば、体温計が足りない。防災備蓄倉庫を修繕対応してくれたが、不十分ではないか？（また、ネズミに入られてしまう。） |
| 144 |   | ハサミがなかったので、配備してほしい。（以前も要望しているとのこと）   |
| 145 |   | ハサミがほしい。以前に要望したものに対しての回答がない。   |
| 146 |   | 布団などは避難所に備蓄してありますかと質問を受け、布団はないですが、毛布とアルミ製シートなどを備蓄していますと回答しました。   |
| 147 |   | 建物利用調査で外観を照らすために必要となるLED投光器が防災備蓄倉庫になかった。   |
| 148 |   | ダンボールのしきり等、着替えに困らないようなものがあるとよい。  |
| 149 |   | マンホールトイレの注水するためのホースとジョウゴを配置してほしい。  |
| 150 |   | トイレ関係の対応で、使い捨ての手袋（ビニール手袋）を配置してほしい。   |
| 151 | 備蓄倉庫の物資等を開封する器具の配置をしてほしい（ハサミ等の本数増加でも可）。   |  |
| 152 | リーダーセット内の体温計では外気に触れると体温を測ることができないため、屋外においても計測できる体温計の導入が必要である。   |  |
| 153 | 資料には検温を実施するようになっていたが、検温器がなく各自の申告により確認した。リーダーセットの内容を改めて確認していただきたい。   |  |
| 154 | 避難してくる人に足腰が悪い人も想定される中、ブルーシートでは座れずに厳しいので何とかして欲しいといった意見がある一方、非常時だからある程度我慢すべきといった意見もあり、どの程度備品を装備しなければいけないかの判断は難しいと感じた。 |  |
| 155 | 受付担当から、何でも書けるA4の用紙の配置をしてほしいと要望があった。   |  |
| 156 | 体育館入口に配置するマット（ダスキンマット等）を配置してほしい。  |  |
| 157 | 何をしたらすぐわかるようにビブスに担当名だけでなく役割内容も書いておくと良い。   |  |
| 158 | 今回、トラメガを持参したが、備蓄倉庫に備えておくと校舎の放送システムが停電などでダウンした時にも活用できると思います。   |  |
| 159 | 参加者からダンボールベットのようなものはあるかと質問を受け、要支援者等が使うシートの備蓄があると回答しました。   |  |
| 160 | 参加者から毛布はあるかと質問を受け、備蓄倉庫にあると回答しました。   |  |
| 161 | 会場にホワイトボードがあると、スタッフの配置や連絡ボードとして使いやすいのではないかと。  |  |
| 162 | ソーラーの携帯充電器があると助かる。  |  |
| 163 | おむつは、サイズや大人用など種類の分かる大きな表示が望ましい。   |  |
| 164 | 備蓄倉庫内の、一番手前の左上のクリアボックスに体育館のセコムやドライバー等の小物など、すぐに使うものが格納されていることを情報共有できた。   |  |
| 165 | 備蓄倉庫入り口のボックスに最初に使用するものが入っていることの周知徹底が必要。   |  |
| 166 | 体育館から防災備蓄倉庫までの距離が離れていて使用しづらい。もっと体育館の近い場所に設置ができないのか？   |  |
| 167 | 防災備蓄倉庫以外に、アルファ米が入っている第2倉庫がある。校舎が使用できるのであれば、第2倉庫の方が体育館からもの近く物品の搬出入も早く行える可能性もあるので、アルファ米の備蓄場所以外に第2倉庫を活用することはできるのか？     |  |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号  | 項目             | 意見等   |
|-----|----------------|---|
| 168 | 防災備蓄倉庫         | 防災倉庫の鍵は誰が持っているのかと質問を受け、初動要員が持っていますと回答しました。  |
| 169 | 防災備蓄倉庫         | 備蓄倉庫に備蓄品の写真が貼ってあるが、夜間だと見えない。各物品の入っている箱にも写真があったほうが良い。また、ひらがなやアルファベットでも記載があると、年少者や外国人も読める。  |
| 170 | 防災備蓄倉庫         | ●●専用の備蓄倉庫が欲しい。  |
| 171 | 防災備蓄倉庫         | 倉庫内の整理整頓を強く要望。このままでは、震災時に荷崩れを起こす。裏の入り口から、●●用の備蓄品にたどり着けるのか？電動シャッターを開けないと、●●用の用品を取り出すことは困難な状況。停電の際、電動シャッターの開閉の方法があるのか確認したい。●●の備蓄品が明確に分かるよう明示してほしい。  |
| 172 | 防災備蓄倉庫         | (報告) ハンドマイクに単三電池8本、ラジオ(手動充電可のもの)に単三電池3本を使用した。   |
| 173 | 図上訓練(避難所利用計画図) | (昨年度からの継続案件) 校長先生から「教育委員会から教育部管轄の施設で計画を」と言われたため、3階を候補地にした経緯があるとの説明があった。●●小学校は入り口となる東門横にユーフォーがあるため、誘導動線などの感染症対策や医療機関への輸送時対応等、ユーフォーを活用できないか、市役所の所管に関わらず、実情に即した計画を検討するべき、という意見が出た。<br>※ 事前に教育総務課に確認し、今年度は部を越えた対応を図るとの回答がありましたので、その説明を参加者に伝えています。 |
| 174 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 総合受付の設置場所や避難者の動線について、教員や地域の方も改善した方がいいと話していたので、変更をお願いしたい。  |
| 175 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 総合受付の位置や避難者の動線について、学校への配慮もあって作成したのだと思うが、先生や地域の方が言われるように、より良い案を出しているのだから改善をお願いしたい。学校職員から、図面に掲示されているシャッターについて、土日(休み)は降りており、開けるには管理室内の鍵が必要との説明があった。マニュアルに反映が必要ではないか。   |
| 176 | 図上訓練(避難所利用計画図) | ペット連れの避難者の導線について総合案内で受付後にペットを預けたあとに体育館に行く導線となっているが、直接行けるようにならないのか。  |
| 177 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 動線が気になる。発熱者と一般の人の受付が一緒になってしまうといけない。   |
| 178 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 地震と水害で総合案内の場所などを変えた方がいいのではないか(昇降口が総合案内になっているが、地震だと建物倒壊の恐れがあるので、建物から離れた場所にするなど)。   |
| 179 | 図上訓練(避難所利用計画図) | ●●小学校の南側校門だけを開ける原則だが、2,3割の住民は北側で、南側に回ると遠い。臨機応変な対応が必要か。  |
| 180 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 多目的グラウンドに遺体安置所と炊き出しスペースが近接して設置されることになっている。衛生的にも心情的にも離れた位置にしてほしい。  |
| 181 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 地区協議会の方からは、要配慮者や発熱者の避難スペースが2階、3階だが、車いすの方や杖歩行者などの身体が不自由な方の介助も必要と思われるので、もっときめ細やかな避難所利用計画書を作成して欲しいとの要望がありました。また、避難した当初に発熱などの症状がない避難者が、途中で発熱した時の対応がどうすべきか。また、それとは逆に、最初に発熱していた方が、回復した時の対応はどうしたらよいかルールを決めて欲しい。                                      |
| 182 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 避難所利用計画では、要配慮者は校舎3階の教室が避難所となっているが、車椅子を利用している方など体が不自由な方が、3階まで移動するのは困難であると思われる。エレベーターがあるが、有事の際に利用できないことも考えると1階に設ける必要があるのではないのでしょうか。   |
| 183 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 住民の方々からすると、南側の門だけだと北側住民が大きく迂回をしなければならず、北側門を開ける必要性を訴えていた。検討が必要である。人手の少ない開設当初は南側で理解いただくしかないかもしれない。また、発熱者を3階まで上げるのは、EVも動かずトイレも遠くなるため、住民の方から疑問が投げかけられた。住民の方からは、1階の●●を利用できないかとの提案がされた。   |
| 184 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 以下、市民からの意見あり。<br>発熱者の隔離場所が校舎の一番端の最上階であるが、そこへ行くのに多くの階段を昇る必要がある。体調不良者には酷な場所だと思うので別の場所を検討できないか(毎年意見を言っているが変更がないのはお役所仕事ではないか、との市民の発言あり)。  |
| 185 | 図上訓練(避難所利用計画図) | ペット避難所にユーフォーーム(「●●」に改名)を設定しているが、通常、子どもの居場所として使用する部屋なので清潔を保ちたいが、ペット避難所に使うことで汚損する等、災害後の復旧が心配との意見があった。プール更衣室をペット避難所に割り当てるとの案もあったが、冷暖房設備がないため、ペットの体調が危ぶまれるとのことで、解決策は出なかった。  |
| 186 | 図上訓練(避難所利用計画図) | ペットの避難場所に受付が必要では？現計画ではプール更衣室であるが、セコムにより施錠されている。備蓄倉庫のカードキーで開錠できるのか。ピロティ部分に教室を2部屋増設する予定。利用計画の見直しが必要。校舎内の要配慮者用の部屋は一般に周知しないほうがよい。(必要ない方でも利用希望をしてくる)   |
| 187 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 感染症対策を考慮した場合、総合受付でしっかり検温する必要があるのではないかと。   |
| 188 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 誘導係は、校舎内の地図を持っていた方が案内しやすいので、図上訓練で使用した避難所利用計画図のA4版が何枚が用意されてあるとよい。  |
| 189 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 避難所利用計画図について、地域住民から集約した意見を反映させて、修正をお願いしたい。  |
| 190 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 避難所利用計画図について、体育館までの動線を毎回直しているが、変更されていない。理由があれば教えていただきたい。  |
| 191 | 図上訓練(避難所利用計画図) | 市民から●●門(西門)のすぐ近くに総合案内を置くように昨年意見をしたが(昨年は正門に総合案内があったが今年は前回の意見を踏まえ西門に変更されていた)、●●門は●●通りに面している。●●通りは幹線道路だが、警察と協議の結果、または確認のうえ総合案内を西門で問題ないと判断されたのか？警察は承知しているのか？と質問を受け、総合案内の決め方は、総合防災安全課に確認しないと分からないとその場では回答しました。                                     |
| 192 | 図上訓練(避難所利用計画図) | ピロティの工事が始まるので、11月以降は利用計画図を変更する必要があり、学校と相談しなくてはならない。   |

| 番号  | 項目                    | 意見等   |
|-----|-----------------------|---|
| 193 | 通信訓練                  | ラジオでのFM放送（調布FM）の電波が入りづらかった。多くの避難者に発信するツールのため改善が必要。  |
| 194 |                       | 防災行政無線がつながらなかった。故障かもしれないが、被災時に情報は命綱であり、このようなことがあると、避難所ごと取り残され、人命にも影響する場合がある。至急メンテナンスをしてほしい。   |
| 195 |                       | 通話に時間がかかったため、マニュアルに分かりやすく説明しておいたほうがよい。  |
| 196 | 避難所開設（避難スペースの設置・収容人数） | 3年前の台風19号の時は、近くの避難所がいっぱいになり、●●小学校に流れてきた人が多かった。車で避難してくる人が多かった。台数を制限しながらグラウンドの開放ができるのか、考えてもらった方がよい。他に、味スタや植物公園の利用も検討すべきではないか。   |
| 197 |                       | 避難スペースの1区画が割と大きいので、すぐに体育館の収容人数が埋まってしまう可能性がある。体育館が埋まってしまった後、どこに誘導するか決めておく必要がある。  |
| 198 |                       | 避難所の収容人数には限りがあるが、発災時は収容人数を大幅に超える人が押し寄せてくる。その場合、避難所への入場を拒否することはできない、一次的にでも入場してもらうことは必要。そのうえで、2次的な避難所を用意して移動してもらうなどの対策が必要と考える。  |
| 199 |                       | 体育館の受け入れ避難数は1シートに1人となっており64人定員となっています。受付で家族での避難かどうかなどを確認して、1シートの人数を増やすなどによってなるべく多くの避難者を受入れできるようにしてほしい。  |
| 200 |                       | ブルーシートがなくなったら（すべて埋まったら）受け入れてもらえないのか？  |
| 201 |                       | ●●会の地域は広く、甲州街道を渡って●●へ来る必要がある。甲州街道を渡れるか？●●会では、鍵を預かっていないため、地域の方と避難してきても施設へ入れないかもしれないと心配である。地区協の方の参加を求む。●●小学校と連携した訓練が必要。学校ではないため、教室がなく、臨機応変な対応が困難。体育館だけでは、収容人数が少なすぎるのでは？                     |
| 202 |                       | 避難所開設した際、体育館の収容人数の上限を超えた場合、どこに誘導すればいいのかあらかじめ決めておく必要がある。   |
| 203 |                       | 実際に避難所を開設した場合に、体育館だけでは収容人数が少なすぎるため、あらかじめどこから人を入れるのが良いのかを決めて置いて欲しい。建物調査で開設困難となった場合に、集まってきてしまった地域の方達をどこへ誘導するのかを事前に決めておいて欲しい。  |
| 204 |                       | 体育館が定員に達した後の対応の流れを明確にしてほしい。   |
| 205 |                       | 車での避難者への対応はどうなるのか？車での避難をしないよう市民への啓蒙も必要ではないか。  |
| 206 |                       | 現状は、車での避難は控えてもらうようになっているが、実際問題として体育館の収容人数が少ないことや、感染症対策の関係で、車で来て車中泊したいという利用者が圧倒的に増えると思われる。現実に即し、車での来場の可否についてもっと柔軟にした方がよいのではないか。  |
| 207 |                       | ハザードマップが避難所にも何部か用意されているとよい。車で避難してきた方にも案内しやすい。   |
| 208 |                       | 避難所の収容人数や車で避難してきた場合の対応が明確になっているとよい。   |
| 209 |                       | 車で来た方をどうするか。校庭での駐車ができないのであれば、東門は閉め、西門では停車のみにするのか。そうすると誘導が必要になる。また誘導する際に、車で避難してきた人に対し、案内できる場所はないのか？例：車で避難は総合体育館に行くように案内。避難は●●小学校だが、車は●●公園に駐車して良いなど事前に広報があると良い。市としてどの避難所で駐車場を開放するのか広報して欲しい。 |
| 210 |                       | 設置したブルーシートの番号を、通路をまたがるように附番してしまったため、来場者が記入した名簿を職員が回収するときに通路を利用して効率的に（番号順などで）回収することができなかった。ブルーシートの番号付けを通路を活用した番号付けを行うようにしたい。   |
| 211 |                       | ブルーシートに事前に附番しているが、避難者自身でも分かるように、ブルーシートの配置番号等を、左右や舞台に分かりやすく貼った方がよい。  |
| 212 |                       | 避難所の区画番号設定について。受付で区画を割り当てする際、1家族に複数スペースを割り当てても事前配布資料のように番号を振ると、番号次第で離れた位置になってしまう場合が生じる。番号の並べ方を変更する、受付の表を実際の並びと合わせて作成する、列がわかるような番号を振る（例：A-1、A-2、B-1、B-2）等の工夫が必要である。                        |
| 213 |                       | 体育館内のビニールシートの区画番号は、列が変わった際に数字が反対側に飛んでしまうと家族でバラバラになることが想定される。マニュアルとは異なるが、列が変わった際には、ジグザグに番号を割り振った方がよい。  |
| 214 |                       | ブルーシートの附番は、連番ではなく、「●列の■番目」が分かるように「●-■」とすべき。そもそも、発災時において、ブルーシートによるゆとりある避難スペースの確保が可能なのか疑問である。   |
| 215 |                       | ブルーシートの番号の付け方は、折り返す形にするといっしょに来た人が分かれることが無くなる。   |
| 216 |                       | 区画番号を記載した番号札みたいなものがあると、間違いなく案内ができるのでは。  |
| 217 |                       | シート設置について、通し番号としているが、何列目の何番（1-12、2-3など）の方が、わかりやすい。数の把握は受付ですが、番地設定の方が迷子にならないのでは。また、会場地図をどこかにポスターにして貼るとわかりやすい。  |
| 218 |                       | シートの番号を養生テープだけでなく、壁にも何番から何番と表示すると案内がスムーズになると意見が出された。  |
| 219 |                       | 受付で、使用できるシート番号を案内するためには、シート一覧が必要である。シートNo.を附番する際は、蛇行させながら附番していくと家族が離れ離れになりにくい。  |
| 220 |                       | ブルーシートだけでは、寝られない。別途、床に敷く何かあるのか。   |
| 221 |                       | 段ボールベットは配備されないのか？   |

| 番号  | 項目   | 意見等   |
|-----|--|---|
| 222 | 避難所開設（避難スペースの設置・収容人数）  | 体育館へのブルーシートの設置については、職員が行ってからの受入れだと時間を要するため、受付で避難者に配布し、体育館内にいる市職員の指示のもと、避難者自らに設置させたほうが良いとの意見があった。  |
| 223 |  | 有事の際、多くの避難者が来ることが想定されるが、訓練のように一人（一家族）ごと担当職員が誘導することができるか、混雑状況を考えると疑問に感じた。誘導後に受付担当がどのように受付先まで戻るかのルートを含めて考える必要もあると思う。  |
| 224 |  | 体育館、要配慮、発熱で部屋を分けるが、色分けのテープか何かをそれぞれの避難者に貼ると、移動による混在がしにくい。  |
| 225 |  | 避難者誘導の際に3人で受付をしたら、受付時の番号と誘導のシートが違ったため混乱が起きた。受付時のルールの共有、受付と誘導のコミュニケーションが大切だと感じた。   |
| 226 |  | 避難者名簿にある世帯主の記載が、実際に避難所受付で対応することを想定すると分かりづらいとの意見があった。  |
| 227 |  | ブルーシートが狭く感覚も小さいので、長期避難の際は段ボールなどによる仕切りが必須との意見有。  |
| 228 |  | 以下、市民からの質問あり。<br>体育館へ敷いたブルーシート間にパーテーションは付けないのか？よくTVで被災所の様子が映ったときに、避難者を使用して段ボールは、どこからもってくるのか？  |
| 229 |  | 体育館に設置したブルーシートの寸法が、袋には「1.8×1.8」と記載されていたが、現物は、すべて「1.6×1.6」であり、大きさが違っている。ブルーシートをメジャー替わりにして、設置したので、結果的に、指定された間隔と違った幅で設置してしまった。災害時には、いろいろなものを代用して利用するので、サイズが違っていると、意味をなさないものもあるので記載するなら、正しい記載を心がけて欲しい。                    |
| 230 |  | 避難所となる体育館にブルーシートを133枚設置した。通路は横に1m確保しているが、●●中学校は広いいため、物資の配給や資料配布等のために縦方向にも通路を設置する必要がある   |
| 231 |  | ●●小は出入口と舞台のレイアウトの関係で、シートの間隔をエクセルシート（追加分）のとおりとすることを決めた。<br>※ 前述のとおり、印刷して防災備蓄倉庫にそなえてください。   |
| 232 |  | 体育館に設置するブルーシートの大きさ表示と現物の大きさが違うことがあった。ブルーシートに記載してある大きさを元に、メジャー代わりにして設置していったので、結果として指定されている間隔と違ったものとなってしまった。災害がおこって避難所を開設する状況となると、平常時のような対応ができないこともあり、記載されているものは正確性が求められると感じている。再度確認をしてほしい。                             |
| 233 |  | ブルーシート間の間隔を調整する（長さを測る）ためのヒモがあるといい。  |
| 234 |  | 体育館に敷くブルーシートが縦横160cmくらいしかなく狭いのでは。   |
| 235 |  | ブルーシートを止める養生テープが青色であり、ブルーシートと同じ色のため分かりづらい。昨年度も意見として挙げたが、変更はなかった。  |
| 236 |  | 体育館にホワイトボードのような表示があると、スタッフの配置把握やお知らせなどに利用できると思われるが、倉庫に入っているだろうか。それとも学校から拝借することになるのだろうか。   |
| 237 |  | キャンプ用テントなどを持参した人の対応はどうしたらよいか。体育館内に張っていいのか、グラウンドに張っていいのか。個人でテント等用意された際、どの様に対応すれば良いのか。  |
| 238 |  | ブルーシートを設置する際の区画の大きさの紐があると速やかに設置できるのでは。  |
| 239 |  | 段ボールベットの配備されないのか？   |
| 240 |  | 雨の日の運営のシュミレーション及び必要物資の配置をしてほしい。   |
| 241 |  | 家族での避難の対応や家族がバラバラに来た時の対応のシュミレーションが必要。   |
| 242 |  | 感染症対策を踏まえた避難所開設訓練としての主旨は理解するが、5月8日から5類に移行することもあり、1シート1人計64人の収納では少なすぎるし、現実の動向に即したものに变更すべきではないか。なるべく多くの方を受け入れたいので、不安な方はマスクをしつつ、もっと詰め込めるような運用に柔軟に変更すべきである。また、そうした中で、避難者に対しては「利用ルールを読んでください」の掲示をしてルールをしっかりとしてもらう形にしてはどうか。 |
| 243 |  | 避難所開設前の一次待機場所について、災害が台風等の場合には、校庭や校門等雨で濡れる場所ではなく、ピロティの安全が確認できれば、屋根がついているピロティを案内できると良い。   |
| 244 | ●●中の体育館がとても広く、実際、ブルーシートを敷く訓練をしたときに、通路があまりにもなく、体育館の真ん中位に一本、通路を作り、案内する方がよりスムーズになるのではという意見がありました。 |   |
| 245 | ●●中特有の対応として、体育館のひな壇に畳がある。これをうまく活用してはどうか。   |   |
| 246 | 体育館に敷くシートの全体図があると、管理しやすい。  |   |
| 247 | 要配慮者のおむつ替えのスペースは必須なので、いざ本番の際には明確にしてほしいとの意見有。   |   |
| 248 | 簡易トイレ体験  | 携帯トイレ体験では、指示書に従って設置するところまでが体験である旨資料に記載があるが、携帯トイレを設置する前に便器にビニール等を設置するとなっていたが、そのような物が見当たらず、携帯トイレの設置ができない状況であった。   |
| 249 |  | 簡易トイレの個数（枚数）が少なく、個人が何回も使用することを考えると、凝固剤等で臭いを抑え、何回も使用できるようにしたほうがよい。   |
| 250 |  | 簡易トイレに使用する黒い袋が小さい。また、固定するものがない。黒い袋を入れるために、更に大きな袋が必要。  |
| 251 |  | 使った後の携帯トイレの廃棄場所が分からない。  |
| 252 |  | 携帯トイレを使用した後のごみ出し等の処理について、マニュアルの整備をする必要があると思われる。   |



| 番号  | 項目   | 意見等  |
|-----|--|--|
| 253 | 簡易トイレ体験  | 参加者からトイレ排出物（簡易トイレ）やゴミはどうするのかと質問を受け、指定場所に保管（配置）すると回答しました。   |
| 254 |  | 簡易トイレの説明を聞いて良かった。可能なら防災課で使用方法の動画などをHPにアップしておけば前もってイメージがわくのではとの意見有。   |
| 255 |  | 使用後の処理したものの置き場等、今後のマニュアルに入れてほしい。   |
| 256 |  | 障害者の場合、携帯トイレの使用について事前に練習しておく必要があると感じたとの意見有。  |
| 257 |  | 自治会に携帯トイレのあっせんをしてほしい、との意見有。  |
| 258 |  | 水洗トイレの使用の可否をどこで判断すればよいのか？  |
| 259 |  | 簡易トイレの備蓄数は、1セット100枚で8セットあることが倉庫内を見て確認できた。ビニールシートを体育館内に81セット引けることが分かったので、1人1日10回行くと想定しても、数日は対応できることが分かった。   |
| 260 |  | 簡易トイレの備えが必要である認識をしていただいた。災害時には、水洗トイレを使用すると、逆流する危険があることを職員から伝えたところ、初耳の方が多かった。   |
| 261 |  | 簡易トイレの取り扱い説明書が外国人にわかりにくいため、改善が必要と考えられる。  |
| 262 |  | ベンクイックを設置するより、簡易トイレを使用した方がよいとの意見もあった。  |
| 263 | 受付訓練   | 受付に体育館内のシート配置図を置いて埋めていく方が案内しやすいので意見としてあげたい。  |
| 264 |  | 以下、職員からの意見あり。<br>受付のテーブルに、体育館にブルーシートを敷き詰めた場合の図面を用意し、受付の際に避難者名簿を渡したら該当のブルーシートに斜線を引く運用はどうか？  |
| 265 |  | 避難者名簿には区画番号の記載があるが、健康チェックカードにも同様に区画番号の記載が必要であると思われる。地域の方が避難してくることを考慮すると同姓の方が多くいらっしゃることもあり、名前で確認するよりも区画番号で確認した方が間違いがないと思われる。  |
| 266 |  | 受付時に区画を案内するが、区画番号の誤りがないように受付に何番まで案内したかチェックするようなシートがあるといいと思われる。   |
| 267 |  | 総合案内で避難先を体育館や各教室に振り分けるが、体育館に収容しきれない人数が避難してくるので、体育館、各教室の収容できる人数を把握したうえで振り分けすべきでないか。   |
| 268 |  | ブルーシートへの案内について、必ずしも1番から順番でなくても良いのではないかと。トイレに近い場所を高齢者にする、足の悪い方を出入口付近に案内するなど工夫できると良い。ブルーシートに実際座っているとかなりきつと感じた。家族1連になって座って良いことになっているが、受付がばらばらになる場合等も想定されるため、受付方法をもっと具体的に決めておく必要がある。 |
| 269 |  | 受付訓練で、その場で即番号を振っていくのは難しい。ナンバリング担当を1人決め、受付側で管理するための一覧表があるとよい。   |
| 270 |  | ナンバリングする際、ジグザグに振ると家族が離れてしまう可能性がある。S字型に振っていくほうがよい。  |
| 271 |  | 避難所に人があふれた場合、受付をしてから避難部屋等を振り分けることは不可能という意見が多かった。   |
| 272 |  | 家族の受付の仕方が難しいと感じた。例えば、家族で時間差で受付する場合に、実際にはまだ到着していない人の分まで受付をするのか、あるいは到着ペースで受付をすると家族で分かれてブルーシートを配分することとなり、分かれてしまうことになる。いずれの方法でも、避難者から苦情になる可能性があると感じた。                                |
| 273 |  | 受付を1ヶ所にする、高齢者等、避難者名簿の記載に時間がかかる方もいるため、避難所内に誘導してから記載してもらうことも有効だ。   |
| 274 |  | 健康チェックカードの必要性や受付をどこでやるのか（例：体育館がいっぱいになった場合。地震が起こった場合校舎前での受付は危険なのでは。）の検討すべき。   |
| 275 |  | 登録用紙は家族で1枚でよい。シートも希望すれば一人1シートでなくてもいいのではないかと。   |
| 276 |  | 1日3回検温するシートになっているが、その都度、職員が計測しに避難者のところに行くのか？避難者が受付まで体温計を取りに来るのか、想定が不明。多くの方が体温計を持って避難しないと思う。  |
| 277 |  | 定員について、実際に避難してきた人が、避難所に入れないような状況の場合には、どのような案内をするか等、詳細が決まっているのか。決まっていなければ、決めておいた方がよい。   |
| 278 | ●●小では、健常者及び配慮者は校舎の中に入りそれぞれの避難スペースに行くことになるが、靴を脱ぐ必要があるのではないかと？対応を検討しておかないと混乱するのではないかと。                                 |  |
| 279 | 台風の避難の際、濡れたくつをどうするか。置き場は？  |  |
| 280 | 避難所受付時にQRコードの書類を配付すると混乱するのでなくてよいと思う。   |  |
| 281 | 小学生が一人で避難所に来る場合がある、その際、受付票をどのように記載させるか。  |  |
| 282 | 一般の方よりも、要配慮者の方に対する案内に人を割くべきである。  |  |
| 283 | 避難所受付訓練を検温消毒、避難者名簿配布3人、案内誘導3人の運営役6人で実施した。実際の受付で、多くの方が避難してきた時には、運営役に多くの人員が必要になると感じた。                                  |  |
| 284 | 避難者誘導の際に3人で受付をしたら、受付時の番号と誘導のシートが違ったため混乱が起き、受付時のルールの共有、受付と誘導のコミュニケーションが大切だと感じた。                                       |  |
| 285 | 受付の仕方、列をさばく際の難しさ。ペット連れの人は2回並ぶことになる、高齢者、要介護者なども並ぶことになるなど、声をかけるにしても優先する判断が難しい。臨機応変にするしかないが、列の後方に人を数人配置し、交代もしながら捌くしかない。 |  |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号  | 項目       | 意見等   |
|-----|----------|---|
| 286 | 受付訓練     | 受付机には2人は必要だった。避難者が並んで開設を待つような状況の場合は、当該ブルーシートまで案内する人が不足するため、あらかじめ、ブルーシートのナンバリングをした一覧表を掲示するとよい。また、受付者は何番まで案内したかを把握するために、同様のものを使用し、チェックしながら案内すると管理しやすい。<br>※ エクセルにシートを追加し用意しました。番号入り・番号なし、それぞれを多めに印刷し、防災備蓄倉庫にそなえてください。 |
| 287 |          | 有事の際のスタッフの配置を特定したほうが良い。具体的には、ペット避難所や駐車禁止であることを伝えるため入口前等。なお、視覚的にわかるように標識等を作成しておいてもよい。体育館の四隅にスタッフを配置し案内した方が効率的。   |
| 288 |          | 総合受付の手前で避難者を前向きにする人については、複数人必要かと思う。ここは避難所の要の部分でもあるため、機動力のある人材が良い。地域の方同士で話し合っておくことも必要かと思う。   |
| 289 |          | 地域住民が受付をする場合も考えて、受付の係でどこまで判断しているのか示されているとよい。  |
| 290 |          | 受付時の受付票は、個人情報も多数記載しているが、市民が受付でもよいのか？性別の記載は必須なのか？健康チェックシートは回収するのか？回収する場合は、受付時では双方向での受渡しは混乱するので、別の場所で実施するなどは？   |
| 291 |          | 受付票の回収について、避難者の様子を見ながら職員が回収した方がよい。受付に持ってきてもらうと混雑すると思う。  |
| 292 |          | 避難所の受付で配布した避難者名簿等、外国の方向けに英語表記もあれば日本語が読めない方などに対して助かる。掲示物も文字だけではなくイラストを交えたり、漢字にルビをふったり、すぐ分かるような掲示物などあればよい。  |
| 293 |          | 住民の方からは、発熱者、要配慮者などがすぐわかるように色テープなどの表示があると、トイレなどで交錯するときお互いに配慮しやすいとの意見があった。  |
| 294 |          | 受付の場所が分かりやすくなるように、のぼり（旗のようなもの）があるとよい。   |
| 295 |          | ブルーシート横にパーテーションが置けないか、段ボールは準備できるのか確認したい。  |
| 296 |          | シートの設置図面が受付にあるとよい。どこが何番のシートなのか職員と市民が分かるように掲示などした方が分かりやすい案内ができる。   |
| 297 |          | 受付時にやらなければならないことなどが、実際にやってみてわかる。誰でもできるように、受付セットにマニュアルもいれておくとよい。   |
| 298 |          | 誰でも対応できるよう、避難所受付のマニュアルを作成して受付セットに入れておくとよい。  |
| 299 |          | チューブファイルに綴る用紙は事前に穴が開いていた方が受付事務が速やかに行えるのでは。  |
| 300 |          | 受付する職員に対し、担当別の腕章があった方がいいのでは。  |
| 301 |          | 職員用の腕章が欲しい。   |
| 302 |          | 名簿上、何番まで受付したか、番号札のようなものがあるとよい。  |
| 303 |          | 名簿は元々、綴るための穴をあけておいてほしい。   |
| 304 |          | 今回は体育館での受付訓練でしたが、総合案内(避難者を一般、要配慮者、発熱者等に振り分けるため児童昇降口に設置する受付)の訓練と要配慮者避難部屋を実際に確認することも行ってほしい。   |
| 305 |          | 学校の授業放送が大音量であったことから、タイミング的に、受付訓練ができない期間があった。致し方ないとは思いますが、近隣住民が中心になって実施する数少ない場面なので、うまくやればと思う。  |
| 306 |          | 受付訓練では「大人」が来ることを想定して実施しているが、「子ども」のみで避難してきた場合の対応方法を整理しておく必要があるとの意見があった。  |
| 307 |          | 地域参加者から誘導の際に順番で案内しますと声をかけてもらったのが非常に安心できたとコメントあり。  |
| 308 |          | コロナ感染を気にする避難者には受付でマスク着用を勧めたらどうか。  |
| 309 | マニュアル    | 台風19号以降に避難所運営内容が相当に変わってきているので、各避難所の避難所運営マニュアルの改正を早期に実施してほしい。  |
| 310 |          | コロナが5類になることによって、市のガイドラインが変更になるのであれば、マニュアルも見直さなければならぬ。学校とすり合わせをしていく機会があったほうがよい。  |
| 311 |          | 新型コロナの5類変更に伴う、避難所運営マニュアルへの反映について、方針等を早めに示してほしい。   |
| 312 |          | 今回の訓練では靴を履き替えて体育館に入ったが、実際の災害時はどうするのか確認したい。靴を脱ぐのか、靴袋などのビニール袋の用意は必要か、長靴や傘の置き場をどうするか、等。  |
| 313 |          | 計画がH29年のままなので、修正が必要！！（昨年の訓練での意見が反映されていない）運営マニュアルが、地区協で作成したものと市作成の内容のすり合わせをしてほしい！！（昨年から言っている）マニュアルのすり合わせ（修正）が常にできる体制、日ごろから連携がとれる体制を構築する必要がある。（市職員ではなく、地域住民が先に現着する可能性が高い。）  |
| 314 | 掲示・案内・広報 | 避難所の様々な表示は、子どもが一人で見ても分かるようにすべき。   |
| 315 |          | ●●内を車両が多く出入りすることが想定される。車両が出入りする西門は、日常的（登下校時も含む）に通行しているところで、総合案内が車両が通る通路とされているため、危険ではないか。総合案内を通路で行う場合、表示は小さく、テントがないとわからない。どうするのか？安全上、避難者は、正門、東門と認識していただく必要がある。炊き出しの位置の再検討や、歩行者が安全に通行できるように表示等が必要。                    |

| 番号  | 項目    | 意見等  |
|-----|-------|--|
| 316 | 感染症対策 | ●●小学校における配置計画では発熱者を4階教室へ誘導することとしている。(コロナ感染防止等のため他と隔離して設置)この点について、体調が悪い発熱者等を4階まで上らせることに対して適当なのかという意見が出された。例えば体育館に収容できなかった一般避難者を4階から順に案内し、発熱者に2階を使用させたとしても、動線を工夫すれば隔離できるのではないかと案が出されたが、2階は職員室があり教職員が頻繁に入り出すため完全に隔離ができない等問題点も挙げられ、本件については今後も検討課題とされた。 |
| 317 |       | 発熱者を3階に避難させるとしているが、エレベーターが無いので階段で登るほかになく、大変酷なことと思う、せめて2階に出来ないか。  |
| 318 |       | 発熱者の避難所は分けられているが、トイレはどのように感染予防対策すればよいかとの質問があった。  |
| 319 |       | ●●を発熱者が利用するのは避けた方がよい。  |
| 320 |       | コロナ感染症の人への対応で、人員がまかなえなかった場合の想定をする必要があるのではないかなどの意見が出た。  |
| 321 |       | 感染症予防として、ごみ捨て場の管理が重要である。ハクビシンなどの害獣による被害が各地で発生している。   |
| 322 |       | 感染症対策として、トイレやゴミ捨て場の清掃は重要。シフトなど決めてはどうか。   |
| 323 | 要配慮者  | 車で避難して来たらどうするか。要援護者等を載せて車で避難所に来た場合(送迎のみ)はどこで乗降させるのか。送迎のみの場合は、敷地内は危険なので門の外での乗降を依頼するのが良いのでは。   |
| 324 |       | 車で避難してきた場合どうするか、歩行困難者を連れて車で来た場合の対処方法について、問題提起がなされ、車での避難は不可、避難者の送迎場所は安全性の観点から校内ではなく、原則的に校外で行うべきとの協議がなされた。   |
| 325 |       | 避難手段は基本的に徒歩で車は想定されていないということだが、現実問題として車でないと避難できない人がいる。車での避難について検討してほしい。   |
| 326 |       | 台風19号で開設した際、車での避難者が多かった。学校に車輛は入れられるのか。校庭利用可なのか確認したい。(⇒防災課から回答願います)どのようなときに車で避難をするのか利用率を調査するとよいのでは。   |
| 327 |       | ●●小に限らず、風水害時は、車への被害を避ける観点からも車による避難者も多いと思う、(はげ下からとか。利便性やプライバシー確保の利点もある)、車で避難してくる方への対策も検討が必要では。(駐車スペースとか)避難所近隣の駐車場や駐車場完備の施設を市で借り上げられるとよいのでは。   |
| 328 |       | 震災時は市内全域が被災することから自宅避難や車内避難をする人も多くなるので、これらの人達にも支援が届くようにしてほしい。また、車内避難は公園などはもちろん、学校の校庭も使用せざるを得なくなると思うので、このことへの対応も検討するよう要望します。   |
| 329 |       | 車両動線に緊急車両の動線記載がない。   |
| 330 |       | ●●小学校の近くには、一次避難所と同時に開設する二次避難所の●●地域福祉センターがあるので、今後、二次避難所への避難訓練も実施してほしい。  |
| 331 |       | 実際に震災があった際、赤ちゃん等、小さいお子様がいる家庭専用の避難部屋を用意する必要があると感じていた。●●中学校の近くには●●児童館があるので、そちらを活用できれば、赤ちゃん等がいる家庭は、避難所を利用しやすくなるのではないかと思います。   |
| 332 |       | 現在のマニュアルでは要配慮者の避難場所が設定されているが、障害者と赤ちゃん等が同じ部屋で設定しているようであった。●●中学校の近くには児童館があり、児童館は赤ちゃん用のおもちゃ等も設置されているため、児童館が近い小中学校においては、小さいお子様がいる家庭の場合は学校ではなく、児童館を避難所として活用するしてはどうかという意見となった。   |
| 333 |       | 情緒不安定な児童者の避難部屋は専用の場所を確保してほしい。  |
| 334 |       | 避難場所が要配慮者等が教室になっているが、段差がなくトイレも近い体育館の方が避難しやすいのではないかと。一般の元気のある人が校舎の上の教室を使用した方がよいのではないかと。   |
| 335 |       | 要配慮者の避難先が3階だが、果たして移動できるのか、移動ルートを含めて検討が必要だと思う。寝たきりでストレッチャー移送された場合はどうするか？  |
| 336 |       | 妊婦さん、障害のある方、ベツ連れの方、熱がある方、介助が必要な方などは、教室などを使い配慮し、体育館では過ごせない方向けに考える必要もあると思います。  |
| 337 |       | 発熱者の避難場所が2階になっている。発熱者の体調によっては自力で移動することが難しいため、1階にしてほしいという意見があった。  |
| 338 |       | 発熱者を3階まで運ぶのに無理はないか。トイレも遠くなる。   |
| 339 |       | 前回は報告したが、避難所開設時に南門のみを開放することとなっているが、北門の開放も地域の方々から強い要望を受けている。地域住民からすると、北門から南門まで回り込まねばならず、回り込むまでに道路が被災している場合や高齢者障害者等配慮を要する方々に対し、配慮に欠けるという指摘があった。  |
| 340 |       | 障害者用トイレのテントを開いてしまったため、テントの設営に手間取った。しかし、実際に障害者用テントの設営も必要であるため、スムーズに設営できる必要があると考える。中に入っている説明書が2種類あり分かりづらい。写真で順を追って設営できるような説明書を作製して欲しい。   |
| 341 |       | 赤ちゃん連れの方は、子どもが泣いてしまうと鳴き声が響き、周りから苦情、または何かしたいという方がいた際の対応はどうしたらよいか。   |
| 342 |       | すでに避難所(体育館)が満杯の場合、要配慮者が優先されるとは限らない。元気な人から避難してくることを考えると教室からの誘導などの方がよいのではないかと。再度誘導経路、優先事項を検討する必要があるのではないかと。  |
| 343 |       | 医療従事者が、各避難所を巡回するなどして、けが人や病人への対応をする体制との連携が必要。   |
| 344 |       | 発災時における医師会との連携を確認しておくべき。   |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号  | 項目  | 意見等   |  |
|-----|---|---|--|
| 345 | 様式関係  | 避難者名簿については、旧様式で記載のあった家族の避難連絡状況を残した方がいいとの意見があった。   |  |
| 346 |   | (地域の方からの意見) 避難者名簿の新様式に「性別」欄があるが、ジェンダーレスの中「性別」欄はなくてよいのではないかと。(必要であれば、その理由を記してほしい。)   |  |
| 347 |   | 健康チェックの様式は、避難者が管理するものと思われるため、《提出不要》等の記載を入れてほしい。   |  |
| 348 |   | 「新たに2穴パンチを用意した」と配付資料に記載あり。印刷室で2穴対応できるので、避難者名簿はあらかじめ2穴したものを備えてください。  |  |
| 349 | 学校施設・備品等  | 優先携帯の所在が学校避難所担当職員も分からなかったため、個人の携帯電話を使用して終了連絡を行った。所在については、少なくとも避難所担当リーダー、避難所担当サブリーダー、初動要員は把握しておく必要があると思われる。  |  |
| 350 |   | 避難してきてから体調が悪くなる人もいるので、保健室のベッドを利用できるようにしてほしい。保健室には全児童生徒の個人情報が入っていることは理解するが、何らかの対策をすれば利用可能と思います。  |  |
| 351 |   | 現状では、保健室は使用不可となっているが、実際の状況では怪我人も多数おり、また避難中に体調を崩す方も散見されることが予想されるため、保健室のベッドと救急用具の開放を要望する。   |  |
| 352 |   | 計画では、敷地内の学童クラブやテニスコートが災害時に利用できないことになっている。利用できるようにしてほしい。   |  |
| 353 |   | 体育館の舞台の使用について、市の見解を示しておいた方がよい。想定より多く避難者がきてしまった場合に、舞台を使っていいのか判断に迷う。(授乳室としての使用では?との話もあったが、明示してほしい。)   |  |
| 354 |   | 屋外で発電機を使用することとなると思うが、どの分電盤を使用するのか示してほしい。  |  |
| 355 |   | 避難所利用計画図を1年を通して体育館に貼っておくことはできないか。いつ災害が起こるか、職員以外の誰が対応するかはわからないので、せめて図面だけでも誰でも確認できる場所に掲示することができると良いと思う。   |  |
| 356 | 避難の考え方・周知   | 人数のカウントについて、出入りが激しい場合には、現在の実際の避難人数を把握するのはかなり難しいのではないかと。   |  |
| 357 |   | 参加者から、本人が来れなくて食料品だけほしいというような場合はどうなるのかと質問を受け、在宅避難者にも配布すると回答しました。   |  |
| 358 |   | ●●中の避難者の中には、医療従事者、消防警察関係者、保育士などの職務経歴の方がいる。また、有資格者(電気工事、水道関係)などの方もいるので、その市民のスキルデータ表を受付時に控えておいて、避難所運営に協力を仰ぐ体制をとってはどうか。市の職員や近隣住民よりも、専門職の方の手を借りた方がスムーズにいくのではないかと。 |  |
| 359 |   | 避難所の受入れが満杯になった場合、市から他の避難所へ誘導する旨の指示があるのか質問があった。状況については防災本部に伝えたいので、現場での判断が求められることを確認した。   |  |
| 360 |   | 市の広報について、避難の際に携帯すべきもの(体温計食料等)を広報してほしい。避難者が体育館に押し寄せたときに、体温計が不足する。配給もすぐに対応できるとは限らないことを市民に認識してもらいたい。   |  |
| 361 |   | 避難者は「お客さん」ではなく、避難所を運営する一員であるとの意識啓発を行うべきとのご意見あり。   |  |
| 362 |   | 台風19号の際のグリーンホールでの避難者受け入れの際は、飲酒をしている避難者がいた。避難所のルールを作って、避難者に周知すべきとの意見があった。  |  |
| 363 |   | 災害の対応等は市が行うから(地域でやる必要はない)と自衛隊をやる人が多い。市としてもっと自助の大事さをPRしてほしい。   |  |
| 364 |   | 事業実施に関する意見  | 本件はまさしく防災訓練であるから、主管課は総合防災安全課であると思われるのだが、防災教育の日そのものの運用は教育総務課が主体となっているように見え、地域住民からも違和感を覚えるとの声を聞いた。そもそも教育総務課が共催しているのはなぜ?  |
| 365 |   |   | 当日の総合防災安全課職員の対応について、疑問に思うことがあった。訓練の様子を視察するため学校に来校したとは思いますが、職員や地域の方が訓練をしている体育館内には入ってこないで体育館入口付近で大声で談笑していた。その様子を見かねて同じく巡回にきていた教育総務課職員が注意をした。体育館の中ではリーダーを中心に真剣に訓練をしていたので、とても失礼な対応ではないかと感じた。 |
| 366 | 地域住民から出された質問については、次年度以降も確認されることが予想されるため、今回の質問に対する回答を事務局で準備し、次年度の避難所担当リーダーに引き継ぐことが必要だと考える。       |   |  |
| 367 | 定員のことや、別の避難所への案内、段ボールベッドはいつ学校に届くことになっているのか等、リーダーに想定問答的な何かメモがあると良いと思った。地域の方からの質問に回答できないことがあったので。 |   |  |
| 368 | 訓練内容  | ●●小と●●高校の合同での訓練であったが、●●高校を担当する参加者からは、今まで●●高校で実際に訓練を行っていないので、●●小学校で毎回訓練を行っても、実際の災害の時に対応できないのではないかと、との意見がありました。   |  |
| 369 |   | 可能であれば発災時を想定した小学校校舎での避難訓練を一度は実施した方が良いと思う。発災から教育総務課職員が到着するまでの対応確認、校舎の開錠施錠訓練、避難所開設訓練(校舎)、避難者誘導訓練(校舎)など  |  |
| 370 |   | 秋の訓練(●●小●●中の取組み?)では消火器訓練やAEDなども行っており、児童も一生懸命に取り組んでいる。そのような訓練も防災教育の日の訓練内容として必要ではないか。秋の訓練も見に来てほしい。  |  |
| 371 |   | ●●には近隣に西部地域福祉センターがあり、福祉避難所に指定されているが、こちらと連携する必要があると感じているため、こちらの訓練も実施してほしい。また、学校内の訓練としては、体育館だけでなく、その一段階前の総合受付での受付訓練も実施してほしい。                                    |  |
| 372 |   | 書面だけでなく、ヒアリング、情報共有、意見交換を行う方法もあるのでご検討ください。   |  |
| 373 |   | 訓練は重要。忘れていたこともあるので、年1回は必要。一度くらい、夜間の訓練ができるとよい。実際に、暗がりでの避難所開設をすることも必要はすなわ。  |  |
| 374 |   | 災害は、自宅にいるときだけでなく、仕事先であろうこともある。避難者が地域住民だけとは限らない、とおりがりの人、調布市に直接関係のない、土地勘のない人、そのような人たちに対しての災害対応も考える必要があるのではとの意見が出た。  |  |

| 番号  | 項目   | 意見等   |
|-----|--|---|
| 375 | 訓練内容   | 避難者の範囲は地域住民だけでなく、発災時点でその地域にいる人すべてとなる。その点も踏まえて訓練すべき。   |
| 376 |  | 停電の時は発電機を使用して体育館内に電気を供給することになるが、その切り替え作業は誰が行うのか、また、発電機の試運転について今後の訓練において実施したほうがよいのではないか。備蓄倉庫内のエンジンオイルの点検も必要。   |
| 377 | 職員体制について（リーダー・サブリーダー等）   | 初動のリーダーシップは、職員なのか地域のリーダーなのかと質問を受け、誰が、避難所に来れるか分からない。その時によって違うと思う。初動要員も地域のリーダーも来ないかもしれない。避難所訓練を受けていない方でも、人がいない場合には協力してもらおう。どっちが主導ということはないのではないかと思うと地域の方が回答した。                       |
| 378 |  | 事前準備や当日の進行等、リーダーになった職員の負担は非常に大きいのではないかと感じた。別途、リーダー手当みたいなものがあるとよいのでは？また、人事異動のたびにリーダーが変更になるのは効率が悪い。せっかく学校の特徴や地域の方との関係が築けたのに、リーダーが変わるたびに、また関係を築くのは大変そう。別のしくみを考える必要はないか。              |
| 379 |  | 合同のため人数が多く地域も合わせると40名程、リーダーや初動の負担が大きい。他の人はやることなく、指示まちのため長い時間手持ち無沙汰になる。黙って座っている、立っているなどの時間が非常に長くなってしまふ。待ち時間が生じること、効率が悪いことについても非常に負担を感じる。   |
| 380 |  | 学校職員が、避難所開設運営は担当職員がやるものと考えている者がいるように思えた。自分達は当事者ではなく、協力者、と考えていると思われる。その流れで、その場その場でリーダーに「こうすべき」というような意見を言っている者がいた。教職員も含め、職員全体に防災対策が自分の仕事であることの意識づけが改めて必要だと思う。                       |
| 381 |  | 二次避難所担当者や避難所担当職員が重なっている場合、訓練に参加したとしても、災害発生した場合には、二次避難所に担当者が行ってしまうケースが想定される。人員配置、人練りについて検討してほしい。   |
| 382 |  | 多数の施設や利用者を抱えている部署の管理職は災害時に所管業務の情報収集や対応方針の決定等に携わらなくてはならないことから、派遣管理職としての業務に災害時にあたるのが困難になること想定されるため、派遣管理職となる部署について十分に検討していただきたい。   |
| 383 |  | 当日参加しない職員が多くかつ固定化している。職務であるならば、ほぼ強制的な参加（参加できないなら代理を立てるなど）にした上で、代休ではなく時間外勤務手当を支払うべきである。参加職員は平日は本来業務に奔走しながら休日返上で参加しているのだから、「そもそも残業が多い中、これの代休なんて取る暇がない、代休では参加したくない」という声が挙がるのは当然だと思う。 |
| 384 |  | 当日欠席するだろうと思った職員は案の定欠席であった。このような職員への意識啓発が難しいのはわかっているが、引き続き意識啓発していく必要がある。   |
| 385 |  | 今回の訓練はリーダーが主体的に実施するだけで、サブリーダーや他の参加者の積極的な参加は見られなかった。もう少し参加者に当事者意識を持たせるためにも、訓練項目を増やす必要はないが、この訓練はリーダー、この訓練はサブリーダー等、訓練ごとに担当者を事前に決めておく方がよいと思う。   |
| 386 |  | 今年度は、リーダー任せではなく、職員が各パートを役割分担し、マニュアル等を参考に地域住民等に説明した。担当を決めることで責任感が生まれ良い結果となった。一方、理由もなく、毎年不参加である職員（別対応を除く。）がいるが、役割の見直しやペナルティがあると良いのではないか。人数だけがカウントされ、他の職員に迷惑である。                     |
| 387 | 当該避難所では、避難所担当リーダーのリーダーシップの発揮により、滞りなく実施できたが、当日までの準備や当日の実施にかかる負担が非常に大きいと感じる。そのような中、昨年度、各リーダーがまとめた意見要望等について、今年度改善が図られないことへの不満を抱いている職員が多くいる。担当部署の人手不足なのかもしれないが、いざという時のために、早急に改善が図られるような組織体制づくりをすべきではないかと感じる。               |   |
| 388 | 避難所担当リーダーの負担が大きすぎる。事前説明会の資料や説明だけでは当日の進行を把握するのに不十分なため、自作で進行マニュアルのようなものを作らざるを得ず、年度当初の忙しい時期に非常に負担となった。また、今年度は市議会選挙の前日となったことから、期日前を含めて選挙事務を担当する職員の負担は更に大きくなったと思う。職員だけでなく、●●の職員からも選挙の前日はやめてほしいときつく言われた。実施日についてはもう少し配慮してほしい。 |   |
| 389 | 事業日程   | 今回選挙の関係もあつての実施時間設定であったと思うが、時間的には問題なく、また終了時間も今までより早く、高齢の方が多く地域の方が参加する事業としては良い時間設定ではなかったかと思う。   |
| 390 |  | 選挙と日程が重なる場合は実施日をずらすことを検討してください。リーダー、サブリーダー各1名が選挙準備のため欠席となり、職員体制が不十分な状態での実施となった。   |
| 391 |  | 選挙投票日の前日は避けてほしい。防災教育の日の日程変更を望む声が多かった。   |
| 392 |  | 春は学校や市職員も異動の時期なので、防災教育の日の実施は難しいのではないか。  |
| 393 |  | 訓練日程は変更について検討の余地はないのか。  |
| 394 |  | 毎年訓練を重ねることで、少しずつ改善されている。反復して訓練を実施することが大事。   |
| 395 |  | その他   |
| 396 | 訓練は重要。忘れていてもあるので、年1回の訓練は必要。また、実際に避難所を開設するのが夜間になることも想定されることから、夜間の訓練ができればいい。   |   |
| 397 | 実際に大地震や風水害が起こると、混乱して動きが滅茶苦茶になってしまう。皆で声を掛け合うことが大事。  |   |
| 398 | 毎年の訓練の中で、少しずつ改善されている。  |   |
| 399 | 今回のような訓練で感じるのは、本番となって大切なのは、今回のような訓練をこの場所で経験している人がどれだけのいるか？併せて、従事する人と人のコミュニケーションが取れるかが大切な要素となると感じた。   |   |
| 400 | リーダーから、災害が発生した場合は、避難所の対応だけでは、物資、人員とも不足することが考えられることから、自助、共助が必要であり、普段から自宅で防災用品や物資の保管をお願いしたい旨の話がでた。   |   |

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

| 番号  | 項目  | 意見等   |
|-----|-----|---|
| 401 | その他 | 意見交換を行った。福祉作業所関係の方や親の会の方などから活発に意見が出された印象。   |
| 402 |     | 本当に災害が起きた際は訓練通りにはならず、臨機応変に対応するしかないかと思っている。マニュアルにこだわらず仕切れたら良いかと思っている。受付ブルーシートは、実際には住民の方々が体育館に入ってから開始になるかもしれないも思っている。大きい災害か、短期間の避難なのか長期間の避難なのかということでも変わって来ると思いますが。本当に地域の皆さんと協力して、良い避難所を作り上げていくしかないかなと思っている（初動要員から）。 |
| 403 |     | 訓練実施中に出了された意見について、避難所担当リーダーから内容の確認が適切に行われ参加者全員で共有した。  |
| 404 |     | 訓練全体を通しては、スムーズにできたと思う、地域の方が積極的に訓練に参加してくれたので良かった。車いす利用者の参加もあったので良かった。  |
| 405 |     | 今回の訓練では避難所担当リーダーが不在でありサブリーダーの方が代行をしたが、避難所担当リーダーが不在の状況を考慮すると、今回のようなサブリーダーが代行することも意味があると思われる。当日はいい緊張感のもと実施できたと思われる。   |

# 第3章

## 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

**ねらい** 過去の災害の教訓に学び、備える

- ◎過去の災害からの教訓や、防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



消防署による煙体験活動(第八中学校)

## 3-1 第一小学校

### ◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第6学年

災害が発生して避難するとき、どんなものを持って行けばよいか、話し合いました。

何種類持っていくか、本当に必要なものは何か、一人一人が考えたあと、グループで話し合い、学級全体で共有しました。グループでの話し合いでは、多様な考えに触れ、避難所での生活について考えを深めることができました。その後、「東京防災」をもとに、基本的な持ち出し品について確かめました。

また、日頃の備えの大切さや避難所で役立つ工夫を知り、いざというときのための意識を高めることができました。



**190**秒以内に避難所に持って行くものをまとめましょう。  
またなぜ、その物を選んだのか理由も考えましょう。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

第4～6学年

まず、過去に起こった5つの大きな地震について学びました。特に、2011年の東日本大震災の被害の写真には、岩手県釜石市の小学校3階に軽自動車が突き刺さっており、津波がいかに高かったかを知ることができました。その後、地震が起こったときの行動のポイント①身の安全を守る。②落ち着いて行動する。③火の元を確認する。④正しい情報を知り、確かな行動を取る。⑤協力し合って救出・救護し合うこと。⑥避難の前に安全確認をする。の6つを教えてくださいました。いざというときに日ごろの防災訓練が命を守ることを再認識できました。





## 3-2 第二小学校

### ◆ 「命」の授業

もし、大地震が起きたら ーどのような行動をすればよいかー

全学年

各学年に合わせて、「大地震が起きた際の行動について」考える学習を行いました。

低学年では、登下校や学校生活の中で地震が発生した際の身の守り方を考え、実際に動作を行いました。中学年では、大地震が発生した際に備えて家庭で行っていることや、家族と離れているときに災害が発生した際にどのように行動するかを考えました。高学年では、「自助・公助・共助」や「避難所の役割」について学び、自分たちでできることを考えました。また、水害が起きそうなとき、自分たちがどう行動するかマイタイムラインを使って考えました。

自分の身を自分で守り、共に助け合うことの大切さを学習することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「地震が起きた時の行動」

講師 調布消防署員

第5～6学年

調布消防署作成の動画視聴の中で、地震が起きた際の避難行動について、たくさんのことを教えていただきました。

高学年対象の動画では、近年発生したそれぞれの大地震の特徴から、『地震が起きた時の行動』について教えていただきました。『「防災行動力」を身に付けることが大切であること。』『地震が起きた際のとっさの行動として、まず、自分の身を守ることが一番大切であること。』『その次に、周りのことを考えて行動することが大切であること。』『火の始末や怪我の有無等、隣近所の様子を必ず確認するのが大切であり、慌てることなく高学年らしく行動していくこと』が大切であると教えていただきました。

避難訓練及び4年ぶりの引取訓練を行いました。児童は、1、2時間目に学んだことを活かして、静かに素早く避難することができました。

その後、保護者の皆様のご協力のおかげでスムーズに引き渡しを行うことができました。



### 3-3 第三小学校

#### ◆ 「命」の授業

|               |
|---------------|
| 「避難所について考えよう」 |
| 第6学年          |

「避難所と普段の生活の違いは？」

防災ノートや新聞記事を活用し、避難生活で困ることなどを考えました。食料が足りなくなる、トイレが大変、知らない人と生活しなければならない、遊ぶ場所がない、など児童の視点から様々な意見が交換しました。

「避難所を支える中学生」

熊本地震での実際に中学生が避難所で活躍していた様子を学習しました。自助、共助、公助の考えや避難所で必要となる仕事などを学びました。タブレットのJamボードを活用し、意見交換しました。

「熊本地震避難所の経験から」

実際に避難所を運営された方の文章を読み、考えを深めました。



#### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

|           |        |
|-----------|--------|
| 「防災啓発講話」  |        |
| 講師 調布消防署員 | 第3～6学年 |

東京消防庁調布消防署作成の「リモート防災学習」の動画を視聴しました。

- 1 日本は地震大国であることを知る。
  - 1995年阪神・淡路大震災の事例から2018年大阪府北部を震源とする地震等を例に、地震によって特徴や被害状況が異なるということを学びました。
- 2 地震が起きた時の「防災行動力」を身に付けよう。
  - その1 地震だ！まず身の安全
  - その2 あわてた行動けがのもと
  - その3 落ち着いて 火の元確認 初期消火
  - その4 正しい情報 確かな行動
  - その5 確かめ合おう我が家の安全 地震への備え（その1～その5）
- 3 防災に関する問題、解説
  - 警防課松川氏の話聞いて、子どもたちはより身近に防災を感じ取ることが出来ました。

## 3-4 八雲台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 非常持ち出し袋って何だろう？

第2学年

まずは、非常持ち出し袋とは何か意見を出し合いました。次に、どんなものを入れておけば良いか一人一人が考えてワークシートにまとめてからグループで話し合い、学級全体で共有しました。グループの話し合いでは、それぞれが入れておきたいと考えたものが違うことに気が付きました。また、各家庭の状況に応じて必要なものが異なることも理解しました。

自分の家族に必要なものを通して、災害時の備えの必要性が他人事ではなく、自分事として認識することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「防災啓発講話」

講師 調布消防署員

第5～6学年

調布消防署員による、「日本は地震が多い国 過去の地震の被害を知る」についての動画を視聴して、過去に起きた地震の被害について理解を深めました。大きな地震は身近にも起きる可能性があることを知り、その時にはどのような行動を取るべきか考えるきっかけとなりました。

動画を見ながら地震の時の行動について、一つ一つ丁寧に確認することができました。とにかく、慌てずに落ち着いて行動すること、地域と協力し合うこと、など大切なことを学びました。

また、どのような備えをしておけば良いかを考えながら、今自分ができることを改めて確認できました。最後に防災学習クイズを通して、内容をしっかりと振り返りました。「6年生として地域のためにできることがきっとあるはずだ。」「普段からの備えが大切。今日から始めたい。」など、防災に対する意識の高まりが見られました。

## 3-5 富士見台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 自然災害にそなえるまちづくり

第4学年

富士見台地区協議会の皆様から、災害が発生して避難した場合、避難所での生活の様子や避難所にはどんな物が準備されているのかを教えていただき、事前に備えるべきものについて考えました。はじめに、東日本大震災を例に避難所生活についてのお話を聞きました。実際に不足した物資や生活で困ったことなどを知ることで、トイレや水の大切さに気付きました。さらに、マンホールトイレを見学したり、水のバケツリレーを体験したりしました。続いて防災倉庫の内部を見学しました。食料、毛布、オムツ、車椅子、浄化装置など、生活に必要な物資が800人分用意されていることを知りました。「500人の児童がいる学校では、家族で避難すると防災倉庫の食糧は、すぐに尽きてしまう。」というお話から、「自分の家でも防災グッズを用意したい。」という感想が多く出ました。見学や体験活動を通して、日頃の備えの大切さに気づき、いざという時への意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 起震車体験

講師 スターツCAM株式会社

第4学年

スターツCAM株式会社の方による、起震車体験を実施しました。地震災害への関心を高めることがねらいでした。校庭に起震車を設置し、東日本大震災の時の揺れを体験しました。児童からは、「実際にこんな地震がきたら怖い。」「地震が来ると分かっていなかったら、どうしたらいいか混乱してしまう。」といった感想が出ました。起震車体験を通して、地震への心構えをもち、日々の避難訓練に対する意識を高めることができました。



## 3-6 滝坂小学校

### ◆ 「命」の授業

ひなんのしかたを しろ うーいのちを まもるためにー

第1学年

小学校生活初めての避難訓練。避難する必要があるのはどのようなときか話し合いました。

地震がきたとき、火事になったときに、どのようなことがおこるか話し合いました。そのことをもとに、自分の命を守るための方法を知りました。

- ・地震がきた時には机の下にもぐること
- ・机の下にもぐるときには、机が動かないように対角の脚をもつこと
- ・火事の時には、ハンカチやマスクで口を覆って姿勢を低くして逃げること

学校で、自分の命を守るための練習を避難訓練といい、「おかしも」の約束を守って避難することを学びました。また、「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」の約束を守るのはなぜかを考えることで、自他の命を守るために大切なことだと気付きました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

災害から身を守ることに関する講話

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

災害の中でも河川の氾濫について特に取り上げて学習しました。河川の氾濫がおこる仕組みを学びました。川があふれたときに危険な場所は低いところで、避難する際には、垂直方向へと避難をする必要がありました。大きな川だけでなく、小さな川もまた危険性があることを知り、河川が学区にある本校でも、洪水の危険があることが分かりました。国で定められた避難レベルが、以前の災害を機に分かりやすいものへと変わりました。避難の基準を正しく知り、身を守るための行動を選択することの大切さを考えさせられました。

講話をもとに話し合い活動を行いました。洪水から身を守るためには、知識を身に付けるだけでなく、「自分の身は自分で守る」を念頭に、正しく判断する必要があると話し合いました。

## 3-7 深大寺小学校

### ◆ 「命」の授業

#### どうする？災害時の食の備え

全学年

体験を通して災害時の備えを考えることをねらいとして、全学年で、災害時の備蓄食料「アルファ米」を食べる活動を行いました。

子供たちは、前日の給食で、備蓄米・アルファ米を使用した「わかめごはん」を食べましたが、実際に自分たちで作るとなると、「できるかなあ」と不安そうな子供もいました。ペットボトルの水をアルファ米のパックに入れ、60分間待ち、出来上がったアルファ米の「ごはん・おにぎり」を食べました。1・2年生は「わかめごはん」、3・4年生は「五目ごはん」、5年生は「昆布のおにぎり」、6年生は「わかめのおにぎり」を食べました。

「こんなに簡単に作れるんだね」、「水を入れただけなのに、おにぎりができるなんて不思議だね」「とてもおいしいね」「家の防災バッグにアルファ米があるので、時々非常食を食べてみようと思う」と子供たちから感想が聞かれました。

災害時の食を通して、防災意識を高め、災害時の備えについて考えることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「災害時に命を救うために」

講師 地域学校協働本部

第4学年

4年生が、地域学校協働本部の方々のご協力を得て、消火体験活動を行いました。実際に体験することを通して防災意識を高めることがねらいでした。

まず、協働本部の防災ボランティアの方から、消火器の仕組みや使い方についてのお話を聞きました。次に、校庭に模擬的な火を設置しました。ボランティアの方に、次々と練習用の消火器に水を補充していただき、全員が消火器体験をすることができました。災害や緊急時に互いに助け合う気持ちを高めるとともに、自分でも、災害時に「命を守るためにできることは何か。」と自分事として考えるきっかけとなる体験活動になりました。

## 3-8 上ノ原小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 持ち出し袋に入れるものを考えよう

第3学年

避難のときに必要最低限のものを入れておく袋を「非常用持ち出し袋」といいます。非常用持ち出し袋に入れられるものは限られています。ワークシートに記載された様々なものの中から本当に必要なものは何か、個人やグループで考えました。

その後の学級全体での話し合いでは、多様な意見が出されました。話し合いの中で子どもたちは、それぞれの家庭によって必要なものが違うことに気が付き、日頃から家族で話し合い、家族の事情や優先順位を考えて準備をすることの大切さを感じることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「過去の地震の経験を生かして」

講師 調布消防署員

第3～6学年

3～6年生は、調布消防署による防災啓発講話を視聴し、家具転倒対策等の準備やいざというときの具体的な行動について学びました。

私たちが住む地域でも、今後大きな地震が起こる可能性があることを知り、その後の避難訓練では、一人一人が自分事として捉えて、真剣に参加する姿が見られました。



## 3-9 石原小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の詩——電池が切れるまで

第5学年

「命」の授業では、1年から4年生までが防災についての理解を深める内容、5・6年生は道徳の教科書を用いて命について考える授業を行いました。

5年生では、道徳の教材で命の詩「電池が切れるまで」という教材で授業を行いました。子どもたちは、「命は一人に一つずつ必ずあり、大切なものである」ということは分かっていましたが、病気を理由に死を目前にした同じ年齢の子どもたちの詩を読むことを通して、生きることについて改めて考えを深めていました。「精一杯いきることとはどんなこと？」という先生の問いに子どもたちは、「いろいろやってみる」「今一秒一秒、友達、笑顔を大切に」「あきらめない」「目標を決めてすすんでいく」と答えていました。自分や周りの人の命を大切にしていこうという気持ちをさらに高めていました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災講話

講師 調布消防署員

全学年

全校児童が調布消防署の作成した防災動画を視聴しました。子どもたちは、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の被害の映像を見て、改めて地震の怖さを感じていました。そして、消防署の方から地震が起きたとき、次のことについて心掛けてほしいという話がありました。

- ① まず、身の安全を図る。
- ② 慌てて行動しない。
- ③ 火の元を確認する。
- ④ ラジオやテレビ、防災放送など、正しい情報をよく聞く。
- ⑤ 隣近所の人と助け合う。



最後にクイズ形式で振り返りがありました。子どもたちにとって学びの多い時間となりました。これからも、いつ起こるか分からない災害に備えて日々の避難訓練や、防災に対する意識を高めていきます。



## 3-10 若葉小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 災害への備え — 教室での身の守り方を考えよう —

第2学年

教室で地震が起こった時に、どのような危険があるのかを考えました。「上から電気や扇風機が落ちてくるかも。」「棚に置いている水筒が倒れて転がる。」「窓がガタガタ揺れて割れるかも。」など具体的な意見が出ました。次に安全な場所の条件（落ちてこない・倒れてこない・移動してこない）を考えます。教室の中では、やはり机の下が安全そうですね。また、とっさに身を守る際に「ダンゴムシのポーズ」をとるとよいことを学び、実際に行ってみました。その後、給食を食べているときや掃除をしているとき、休み時間で友達と遊んでいるときなど、授業以外の際にはどのような危険が潜んでいるのかを考えた子どもたち。万が一の時にどのような行動をとればよいのかしっかり考え、避難や防災への意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

全学年

タブレット端末を活用し、調布消防署員による防災啓発講話を視聴しました。子どもたちは、教室でスクリーンに映し出される画像を食い入るように見つめています。地震はいつ起きるか分かりません。実際の地震による被害を表した画像から、自分事として捉え、「防災」の必要性を強く感じたようです。消防署員の方からの「自分や家族の命を守るために今日学習したことを忘れないでください。そして家族と話し合ってみてください。それがいつの日か役に立つときがきます。」とのメッセージから、自分の頭で考え判断するとともに、行動に結び付けていくことの大切さを実感したようです。

## 3-11 緑ヶ丘小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 地震が起きたとき 一命を守るために自分ができること一

第4学年

地震が発生して避難するとき、どんなことに気を付けたらよいかについて考えました。

教室、廊下、校庭や体育館など、学校の中でも場所によって、危険なこと・ものが変わることを知り、身の守り方が違うことに気付きました。また、一人で登下校をしているときや近くに大人がいないときは、周りの人に助けを求めることが大切であることを学びました。地震の危険と同時に、その危険からの自分の命を守る方法について考えを深めることができました。

今回の学びを避難訓練や学習に生かし、自分の命をしっかり守れる子供たちに育ててほしいと願っています。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「防災の準備と対応」～自分で自分の身の安全を守るために～

講師 国士舘大学 浅倉 大地 氏

第5～6学年

国士舘大学浅倉大地先生による、防災啓発講話を行いました。実際に災害が起きた時、避難所で過ごすときに大切なことについてのお話でした。

ルールや決まりのない避難所の絵を見て、問題だと思うことや改善策をグループで話し合いました。児童からは、「食料や布団は公平に分けるとよい。」「トイレがきれいに保たれるように掃除当番を決めるとよい。」など、前半の講義でお話があった避難所で大切な「T（トイレ）・K（食事）・B（ベッド）」に着目した意見が多く出されました。

普段の避難訓練では、一時避難が中心なので、実際に避難所で生活するということについて考えるよいきっかけになりました。



## 3-12 染地小学校

### ◆ 「命」の授業

#### いざというとき、何が必要かな? ~防災カードゲームで学ぼう~

特別支援学級6年

地震などの災害に対して、どのような道具を、どのようにして使うのがよいかをカードゲームを使って学びました。このゲームは阪神・淡路大震災を経験された方々へのヒアリングやアンケートを基に制作され、災害で発生する様々なトラブルと紙芝居形式で出題されているので、とても分かりやすいものです。ゲームの楽しさを味わいながら、日頃の備えの大切さや道具の扱い方も学び、いざというときのための意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「地震がおこったときのために・・・防災知識を身に付けておこう」

講師 調布消防署員

第5学年

調布消防署員による、リモート防災学習「日本は地震が多い国 過去の地震を知る」を学習しました。日本における過去の大地震の様子や被害状況などを映像とともに学びました。

「東日本大震災のほかにもたくさんの大地震が起きていたことに驚いた。」「大地震でたくさんの建物が倒れたり、火事が起きたりして地震はとても怖いと思った。」と大きな被害をもたらす地震の怖さを知りました。

動画資料を見た後に、地震がおこったときにどういふ行動をするのがよいか。普段からどのような備えをしておく必要があるかをクラスで話し合いました。

感想やさまざまな意見が出され、友達の見いによって自分の防災への意識が高められるなど、効果的な話し合い活動になりました。



## 3-13 北ノ台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 学級活動 ひなんのしかたを考えよう

第4学年

4年生では、避難の仕方について児童が具体的な場面を想起して思考する学習場面を設定し、避難をする順番について友達同士で話合いました。教室だったら、階段にいる時だったらなど学校生活の中で起こり得る状況をテーマとして、自分がその場所で取るべき行動を付箋に書いて順番を入れ替えながら正しい避難行動を確認しました。

この後の避難訓練では、自分たちが想定した避難行動を意識しながら安全に素早く避難することができていました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「地震の時の行動や備え」

講師 調布消防署員

第3～6学年

3年生以上の児童は、調布消防署から配信された防災に関する動画を見て、地震の被害の実態や防災に関する内容を学びました。実際に消防署の方がお話ししている動画は、わかりやすく、実際に地震が起こった時に、自分がどう行動したらよいかをしっかりと理解できるものでした。

地震が起こった時のことだけに注目しがちですが、大切なのは日頃からの備えや家族などで話し合いをする事前の準備であり、そのことについても話がありました。子どもたちにとって災害は身近に感じにくいことだけに、具体的な映像や消防署署員の方の話がこれからの日常生活の中で活用されていくことを願うと共に、学校においても繰り返し避難訓練の機会を捉えて災害に対する指導を子どもたちにしていきたいと思えます。



## 3-14 多摩川小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 一命を守る一

全学年

災害が発生したとき、どのような行動をとったらよいのでしょうか。

1年生は、災害時に取るべき行動を実際にやってみました。学校で行う、初めての避難行動です。

3年生では、紙芝居を見ながら「こんなとき、どうする？」を学びました。クイズ形式での学習に、子どもたちはノリノリで楽しみながら学びました。

4年生は、「もしもの時にそなえて」をテーマに、教員の提示する絵を見ながら、自分だったらどんな行動をとればよいのかを考え、話し合いました。

他の学年もそれぞれ発達段階にあった学習をしました。



1年 大切な命と安全



3年 こんなとき 君ならどうする



4年 もしもの時にそなえて

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 洪水に関する安全指導

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

多摩川にほど近い多摩川小学校では、川の増水による浸水の被害を身近なこととしてとらえています。台風の際に、避難を経験した児童もいます。

京浜河川事務所の動画を視聴し、各学級で担任が安全指導を行いました。

9月には、学校で、洪水警報発令時の避難訓練も行いますが、その時の状況をしっかりとイメージし、いざというときに、自分の命は自分で守れるように、学習をしました。



## 3-15 杉森小学校

### ◆ 「命」の授業

「あんぜんにひなんする」ためにどうすればいいのか考えよう

第2学年

地震が起こった時にどうすればいいのかを、様々な場面を想定しながら話し合いました。

#### ①学校で地震が起こった時

プロジェクターで自分たちが使っている下駄箱の写真を投影し、どのような行動をすればいいのかを考えました。子供たちからは、靴などいろいろなものが落ちてくることが危険だから、頭を守ることが大切との声があがりました。

#### ②登下校をしているときに地震が起こった時

実際の登下校ルートの写真を見ながら、どのような危険があるか友達と話し合いました。自分たちで危険を予想し、身を守る行動をとることを担任が伝えました。さいごに、「お・か・し・も」をポイントに安全に避難する方法をみんなで確認しました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

VR防災体験車を活用した防災教育

講師 調布消防署員

第6学年

VR防災体験車に来てもらい、地震発生時の様子を体験しました。モーションシートによる演出とヘッドマウントディスプレイのVR映像による体験で、地震を疑似体験することができました。体験した子供たちの感想からは、「映像の女の人と同じように、自分もパニックになってしまった。」「実際に起こった時に、どうすればいいのか前よりも分かった。」「物がたくさん落ちてきたから、家具をきちんと固定したほうがいいことが分かった。」「地震が起こった時に、冷静になれるか心配だけど、自分のことをしっかりと守れるようにしたい。」などと、これまでの防災教育で学んだことを、疑似体験でさらに自分事として学ぶことができました。



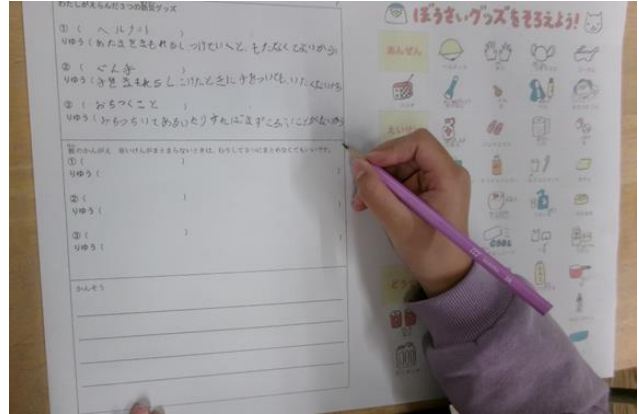
## 3-16 飛田給小学校

### ◆ 「命」の授業

#### ぼうさいについて考えよう ～ぼうさいグッズから学ぶ～

第2学年

「あんぜん」「えいせい」「どうぐ」で仲間分けされた防災用品の一覧表から、自分が最も必要だと思う防災グッズを3つ選び、選んだ理由を班で発表し合いました。全体としては、「ヘルメット」を選んだ児童が一番多く、その理由としては「脳を守るため。」「頭が一番大切だから。」などが出ました。一人一人が、なぜそのグッズが必要と思うのかを理由をしっかりと考えることができ、さらに友達の意見を聞いて、防災についての意識を高めていました。最後の感想には「いのちをまもれそうなグッズばかりだった」「いつ地震が来るかわからないけれど、こういうものが助けてくれると思った。」などの意見が出ました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「まちかど防災訓練車による体験活動」

講師 調布消防署員

第3学年

東京消防庁調布消防署の隊員の皆さんをお招きして、まちかど防災訓練車による防災体験が実施されました。この防災体験では、3年生全員が訓練車の炎の絵の的に向かって放水体験をしました。実際にホースを握って、ホースを通る水圧や放水の勢いを感じ取ることができました。順番を待っている間には、隊員の皆さんが子どもたちの消防や救急に関する質問に分かりやすく答えてくださったので、とても有意義な時間を過ごすことができました。最後に隊員の方から「将来隊員になって一緒に働いてくれることを願っています。」と言われて、子どもたちはにっこりしていました。



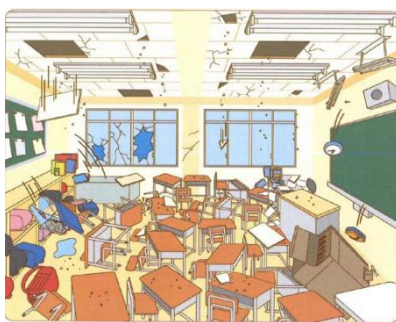
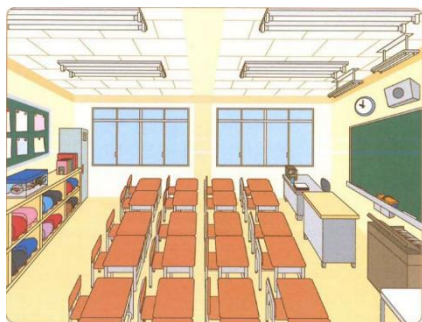
## 3-17 柏野小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「安全な避難行動を身に付けよう」

第2学年

地震発生時の安全な避難行動について、絵や写真、動画の資料を題材に授業を行いました。「教室にいる時に大きな地震が来たら、どんな危険なことがありますか。」の問いに対して、児童は教室の絵のワークシートをよく見ながら危険な箇所に赤丸を付けていきました。ワークシートが赤丸でいっぱいになったところで大地震後の教室の絵を提示すると、驚きの声が上がりました。実際の様子は、児童の予想を上回っていたようです。東日本大震災時の写真や映像資料をもとに、学校の外での危険についても考え、身を守る行動をワークシートにまとめました。校内外の危険について知り、身を守る行動の必要性について考えを深めました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「まちかど防災訓練車・放水体験」

講師 調布消防署員

第5～6学年

5・6年生は東京消防庁調布消防署深大寺出張所のご協力により、防災訓練車で放水体験をしました。1回目は消防隊員のサポートのもとで、2回目は子どもたちだけの力でチャレンジしました。楽しみ半分、緊張半分で臨んだ子どもたちは、生まれて初めて握るホースの感触、放水時の水圧の強さに驚いていました。児童からは「思った以上に水圧が強かったです。改めて、普段の防災や、いざという災害時に、自分ができることは何かを考えるきっかけになりました。」といった感想を聞くことができました。





## 3-18 国領小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 防災ワークショップ

第5学年

子供たちは、自分の家庭の災害に対する備えを確認しました。備えの状況は、それぞれの家庭でかなりの差があることがわかり、もしもの時のために備えをしようという意識が高まりました。

その後は三角巾を使って止血をする実技に取り組みました。実際に操作してみると思った以上に難しいことがわかり、看護師さんや医療にかかわる人への尊敬の念をもちました。子供たちはここでも備えをすることの重要性を理解することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第5学年

多摩川を管轄する国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所制作の動画を視聴しました。子供たちは水の威力の大きさに驚いていました。水害の仕組みを知り、治水事業や堤防など人間が災害を防ぐ努力をしていることを科学的・客観的に学ぶことができました。

また、学校からそれほど遠くない多摩川でも水害が起こりうることを知り、水害は身近にあると感ずることができました。「学校に隣接する野川は大丈夫なのだろうか」という感想をもつ子供も多く、災害を他人事ではなく身近に感ずる機会となりました。



## 3-19 布田小学校

### ◆ 「命」の授業

#### あなたならどうする？～自分の身は自分で守る～

第1～6学年

子どもたちは、大震災時を想定して自分の身を守るための具体的な行動を考えました。

- ・第1学年 火事になったり地震が起きたりしたときの安全な避難の仕方を知る
- ・第2学年 地震が起きた時、どのような行動をとればいいのか考える
- ・第3学年 家にどのような防災グッズを準備しておくのがよいかを考える
- ・第4学年 家に1人にいるときに大きな地震が起きた時の自分の身の守り方考える
- ・第5学年 避難所で自他を尊重しながら生活するために必要なことを考える
- ・第6学年 バスや電車を使った外出先で大きな地震が起きた時の行動を考える

子どもたちは、それぞれの場面での具体的な行動を考えることを通し、命の尊さ、「自分の身は自分で守る」ことの大切さを学ぶことができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 過去の震災を振り返って考える

講師 調布消防署員

第3～6学年

3年生から6年生は、調布消防署作成の動画教材により、防災の大切さについて考えました。

私たちは、東日本大震災をはじめ、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、熊本地震、大阪府北部を震源とする地震と、幾度となく災害を経験してきました。そして、命の尊さを改めて知るとともに、自分の命を守る知恵、一人でも多くの命を守るための知恵を付けてきました。この思い・知恵を子どもたちに少しでも学んでもらえたらと考え、調布消防署のご協力を得て防災講話を行いました。教材には過去の震災の写真や振り返りクイズがあり、子どもたちは真剣な顔をして防災について考えていました。



## 3-20 調和小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 地震の時の避難の順番を考えよう 一命を守る授業一

第5学年

教室で地震が起きた時に、どのように校庭まで避難すればよいかを考え、話し合いました。

日頃の避難訓練の経験を基に「避難時に必要な行動」を班ごとに話し合いながら、順番をプログラムしました。「放送を聞いたほうがいいよ。」「まずは机の下にもぐって頭を守らないと。」と、プログラムを組む過程を通して、一つ一つの行動の意味を考えることができました。

また、防災ノートデジタルブック版を活用し、防災に必要な知識を確認したり、災害時の行動や日頃の備えを考えたりしました。

その後行われた避難訓練では、プログラムした順番どおりに動き、正しい避難の仕方を実感することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災啓発講話一多摩川が起こす水害と、命を守る行動一

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

国土交通省職員の方による説明の後、水害の危険性や避難の仕方などについて知る動画を見ました。調布市を流れる多摩川や調和小学校のすぐ横には野川があり、児童の生活の中には水害の危険性があります。そこで、防災啓発講話を通して、水害の危険性を知ったり、児童の水害への意識を高めたりすることがねらいでした。

動画では、多摩川の過去の水害を知り、川が氾濫すると土を侵食し、家すらも流してしまう力があることに児童は驚いていました。また、堤防も決して万全ではないことを知り、水害に備えてハザードマップを活用することや避難の仕方を知っておくことの大切さを感じていました。

児童の水害への意識を高めた啓発講話になりました。今回の学びをいざという時に生かし、自分の命を守る行動につながることを願っています。

## 3-21 調布中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、自他の生命を尊重する(道徳)

全学年

本年度は、「命の尊さ、自他の生命を尊重する」の内容で学年毎に計画し、道徳の授業を行いました。1学年は「ひまわり」、東日本大震災で家族全員を奪われた陸上自衛隊の方の話を通して命の尊さを、2学年は「命が生まれるその時に」、詞やフォトグラファーの方の思いを通して「生きている」や「生きる」ことの尊さについて、3学年は「あの日 生まれた命」、震災という非日常の中で、我が子の誕生と祖母の死を同日に経験した母親の心の変化を通して「かけがえない命」について、考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災啓発講演会

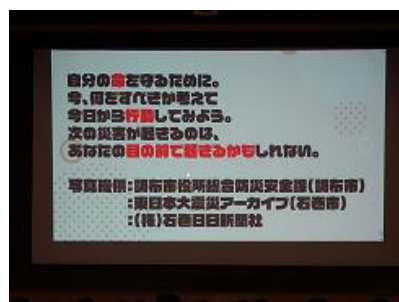
講師 石巻市防災士協議会 武井 友佑 氏

全学年

石巻市防災士 武井 友佑さんを招き、「東日本大震災から12年～この時代の防災」について、体育館にて全校生徒に向けて講演していただきました。東日本大震災で被災された方の近くで、防災士として活動してきて、今思う、「大事なこと」の3つを教えてくださいました。

- ① 普段から周りの人と挨拶をしよう
- ② 自分の出来ることを考えたり、やりたいことを決めておこう
- ③ どんな時でも必ず「行ってきます」と言おう

講演後にお話させていただいた時に、「中学生という年代では、恥ずかしいという思いや、反抗期などもあり、なかなかできないかもしれませんが、是非実行して欲しい」と話されていました。



## 3-22 神代中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

1年生は、東日本大震災で被災した清和さんの行動から命の大切さを実感する授業、2年生は、出産を撮影するフォトグラファーの繁延さんの文章や写真を通して生命の尊さを考える授業、3年生は、家族の尊厳死から今を生きる自分や家族の命の尊さを考える授業を行いました。各学年とも、友達と意見を交わしながら、真剣に命の大切さを考えていました。11組は、防災補助教材「3. 11を忘れない」を活用し、東日本大震災の写真を見ながら、かけがえのない命を守ることを考えることで、自分や他者の命の大切さを考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 水害における防災啓発講話

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所作成の防災啓発講話(動画)を視聴しました。台風や大雨による河川の氾濫の時に起こる水災害(川の氾濫、家への浸水、体験者の話)の映像、災害が起こった時の対処方法(避難のタイミング、水圧の対処)について、災害が起こる前にできること(ハザードマップの作成、近所の避難所の確認)について等、防災に関する様々な学習をし、ワークシートにまとめました。調布市には多摩川もあり、地震だけでなく、水害について考えるよい機会となりました。



## 3-23 第三中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の大切さを考える授業(道徳)

全学年

学年ごとに、それぞれ「命」をテーマに授業を展開しました。3学年は道徳の教科書より「あの日生まれた命」を教材とし、東日本大震災の最中の出来事について学びました。グループワークではお互いに意見を交換、その後グループ毎に発表をし「命の尊さ」についてより学びを深めました。また、授業を担当した教諭からは東日本大震災の発生時に自分が何をしていたのかを直接生徒に語り掛け、題材をより身近に感じることができる授業となりました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災講話～災害に備えよう～

講師 防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 近藤 貴人 氏

全学年

自衛隊より講師の方をお招きし、災害に備えるため何が必要なのかを4つのポイントに分類してお話していただきました。災害発生時における初動対応から順次説明してくださり、自分の身の安全を守りつつ、周りの人も守る手段を学びました。

今年度は災害時、避難時に情報収集をするにあたっての注意点（特にSNS関連）、また避難時に於いて人が一箇所に集中することで起こる事故についての注意点についても教えていただきました。

最後に生徒代表が講話のお礼と共に『「4つの備え」について教えてもらったことが印象的でした』との感想を述べました。



## 3-24 第四中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

各学年とも、昨年度同様、震災を題材にした教材を用いて命の尊さ、大切さを考えました。

1年生「ひまわり」では、東日本大震災で家族を失った方が、「はるかのひまわり」を育てることをきっかけに語り部として活動している話を通して、命の大切さを考えました。

2年生「命が生まれるそのときに」では、震災を経験し「死」を身近に感じたフォトグラファーが、出産を撮ることをライフワークにしている話から、「生きる」ことについて考えました。

3年生「あの日 生まれた命」では、震災の日に生まれた子ども達へ椅子を送る『君の椅子』プロジェクトで椅子を受け取った母子の話から、「命」への感謝について真剣に考えました。

映像資料やICT機器を活用しながら、教師からの発問を基に、生徒たちからの生きることの大切さや命の重さの意見についてグループで交換し合い、自分の考えを深めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 多摩川が起こす水害に、地域で備える

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

昨年度同様、多摩川の治水や台風・水害時の行動について、動画を交えながらオンラインで講話を聞きました。生徒にとって身近な存在の多摩川での、昭和49年の狛江の堤防決壊や令和元年の東日本台風の被害の様子などについても紹介されました。調布は実際に被害の出た地域でもあり、真剣に講話を聞いていました。また避難訓練では、生徒に重症者や行方不明者の役を割り当て、実際に被害にあったことを想定して実施しました。全員が真剣に取り組み、自分たちの住む地域と災害を関連させて考えることで、防災意識の向上につながる一日になりました。

訓練では、避難訓練と引取訓練を実施し、有事の際の対応をシミュレーションしました。



## 3-25 第五中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

○1年生 『ひまわり』：東日本大震災で家族を失った作者は、ひまわりを育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がり、やがて語り部として生命の尊さについて伝える活動を始めました。生徒は作者の心情に寄り添うことで語り部としてどんなことを伝えたいか考え、生命の尊さについて考えを深めました。

○2年生 『命が生まれるその時に』：出産をテーマに写真を撮るフォトグラファーの経験と体験から、震災による生きているのが当たり前ではない場面を通して、生徒は生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命の尊さを深く見つめ考えました。

○3年生 『あの日 生まれた命』：東日本大震災の中、我が子の誕生と祖母の死を同時に経験し、子どもの誕生を率直に喜べない母親の元に一脚の椅子が送られました。その椅子に込められた思いから母親の心が少しずつ変化します。生徒は、3月11日に起こった生と死、それを取り巻く家族と「君の椅子プロジェクト」の人たちの思いを考えることで、命のかけがえのなさ、そしていかにして命を大切にしていくかについて考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 多摩川が起こす水害に、地域で備える

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所が作成した動画を視聴し、多摩川の治水、水害時の行動や令和元年東日本台風の被害の様子などについて学びました。調布は被害の出た地域でもあるので、生徒にとっても身近な問題としてとらえることができました。また、中学生として地域のためにできることを考え、災害に備えることの大切さを学びました。家族で話し合うことの大切さにも触れていただき、震災だけではなく水害という視点からも防災意識の向上につながりました。





## 3-26 第六中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「命の尊さ」について考えよう（道徳）

全学年

第1学年では、東日本大震災で家族を亡くし、明日が来るのが当たり前だと信じて疑うことがなかった日々が失われてしまったことを、語り部となって後世に伝えている方の話から、人はどうして「命の尊さを感じるのか」を考えました。第2学年では、自然環境の変化によって私たち人間の生活も変化し、今後の自然災害に対しての備えと共に、「命を守っていくために私たちができること」について考えました。第3学年では、陸前高田市の奇跡の一本松といわれる希望の木を題材に、受け継がれる命、命のリレーについて考えを深め、命のかけがえのなさについて思いを深めました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災啓発動画・避難訓練・引取訓練

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

防災啓発動画を視聴し、自分たちが生活している地域での災害として、主体的に考えることができました。災害は予測が困難なため、過去の事例から学び、未来へ備えることが大切であり、そのためには、地域が協力していくことが必要ということを考えることができました。災害時に自分の命を守ることはもちろん、中学生の行動は家族や地域の方の命を守るために必要とされる力となります。未来のために私たちができることを、これからも考えていきたいと思います。

引取訓練においても、たくさんの保護者の方にご協力をいただき、実施することができました。



## 3-27 第七中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 防災の観点から命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

調布市立第七中学校では各学年でそれぞれ防災の観点からの命の道徳を行いました。

1年生は様々な場面を想定した「災害について知る授業」、2年生は地域の中で活躍する「消防団について」、3年生は「もし学校が避難所になったら～避難の誘導を手伝ってみよう～」を取り扱いました。学年ごとに違いはありますが、全員が防災やそこにかかわる命について深く理解することができたと思います。最後の10分は消防庁HPからの実際に災害が起きた時にどうするか2択の問題を全員で取り組みました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 消火器と起震車の体験型訓練

講師 調布消防署員

全学年

全学年で消火器の訓練と起震車の体験を行いました。消火器では、はじめに「火事だ！」と大きな声で周りに伝えることが必要と教えてもらいましたが、恥ずかしがってしまい大きな声を出せる生徒は多くありませんでした。しかし、実際の災害の時は、何よりも、周りとの情報共有ということが大切になってくるので、しっかりと理解して体験を終えました。

また、起震車については、各クラス6名が体験に参加しました。大きな揺れを経験したことがない生徒がほとんどで、揺れの恐ろしさや危険性を理解できたようでした。消火器や地震の揺れなど、練習がなかなかできないものをこのように体験させていただき、生徒全員が実際の防災について深く理解ができました。



## 3-28 第八中学校

### ◆ 「命」の授業

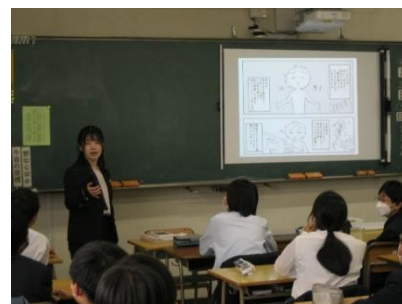
「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」(道徳)

全学年

中学生の年齢では、自己の生命の尊さや自分の命が多くの人に支えられていることを感じ取る経験をする生徒は多くはありません。そこで1学年は、「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」を教材として、当たり前の生活ができることへのありがたさに気づき、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養いました。展開部分では、作者が漫画を通して伝えたいことを考え、班で発表を行い、クラスで共有しました。意見の中には、「命の大切さを伝えたのだと思いました。命を落とした時、周りで悲しむ人が大勢いることを知ってほしいのだと思う。」、「災害の怖さを伝え、命の尊さを伝えたかったのだと思う。」など多くの感想がありました。



2学年は、「3.11を忘れない」の資料である被災した中学校2年生の作文「バイバイ」を使って生命の大切さについて考えました。



3年生は、東日本大震災で被災した中学3年生が、中学の卒業式で卒業生代表として「門出の言葉」を行った生徒の文章を資料とし、その当時の動画を見ながら道徳の授業を行いました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「煙体験活動」

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署員による、煙体験を実施しました。本校の昇降口近くに煙体験ハウスを設置しました。体験は、煙が苦手な生徒など以外、全生徒対象で、学年ごとに時間を決めて実施しました。初めに消防署の方から火災による煙の恐ろしさや回避の仕方、その他の注意点などの講義がありました。その後、一人一人体験用の煙が籠った体験ハウスに入りました。体験した生徒からは、「何も見えずとても怖かった。」、「低い姿勢の方が安全だと知りました。」、「煙が有毒だったら空気が吸えないと感じました。」といった感想を聞きました。短時間ではありましたが、煙の怖さを感じてくれたようです。





# 〔資料〕

## 令和5年度 各学校実施内容(1～3校時)



「命」の授業（若葉小学校）

## 令和5年度 各学校実施内容(1～3校時)

各学校の実施内容を一覧でまとめています。

新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者・地域の方への公開を中止しました。

| 学校名    | 1校時目  | 2校時目                                       | 3校時目   |
|--------|---|--|--|
| 第一小学校  | <p>通常授業<br/>1～3年<br/>ひまわり学級<br/>@各教室</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：調布消防署員<br/>4～6年<br/>@体育館<br/>(動画視聴)</p> | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>ひまわり学級<br/>@各教室</p> | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 第二小学校  | <p>通常授業<br/>1～4年<br/>@各教室</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：調布消防署員<br/>5～6年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p>            | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>@各教室</p>            | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 第三小学校  | <p>通常授業<br/>1～2年<br/>@各教室</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：調布消防署員<br/>3～6年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p>            | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>@各教室</p>            | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 八雲台小学校 | <p>防災啓発講話<br/>講師：調布消防署員<br/>1～6年<br/>わかあゆ学級<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p>                               | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>わかあゆ学級<br/>@各教室</p> | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |

| 学校名     | 1校時目   | 2校時目  | 3校時目   |
|---------|--|---|--|
| 富士見台小学校 | <p>通常授業<br/>1～3年<br/>かしわ学級<br/>@各教室</p> <p>起震車体験<br/>4年<br/>@校庭</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：国土交通省<br/>関東地方整備局<br/>京浜河川事務所職員<br/>5年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：調布消防署員<br/>6年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p> | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>かしわ学級<br/>@各教室</p>   | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 滝坂小学校   | <p>通常授業<br/>1～2年<br/>わかくさ学級<br/>@各教室</p> <p>防災啓発講話<br/>講師：国土交通省<br/>関東地方整備局<br/>京浜河川事務所職員<br/>3～6年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p>   | <p>「命」の授業<br/>1～6年<br/>わかくさ学級<br/>@各教室</p>  | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 深大寺小学校  | <p>「防災に関する授業」<br/>(防災ノート活用)<br/>1～3, 5～6年<br/>@各教室</p> <p>「防災に関する授業」<br/>(消火器訓練)<br/>講師：調布消防署員, 地域学校協働本部<br/>4年<br/>@校庭</p>  | <p>「命」の授業<br/>(非常食体験)<br/>1～6年<br/>@各教室</p> | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |

| 学校名    | 1校時目   | 2校時目  | 3校時目                                     |
|--------|--|---|--|
| 上ノ原小学校 | 通常授業<br>1～2年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>3～6年<br>@各教室<br>(動画視聴)  | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 石原小学校  | 防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>1～6年<br>@各教室<br>(動画視聴)  | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 若葉小学校  | 「命」の授業<br>1～3年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>4～6年<br>@各教室<br>(動画視聴)  | 防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>1～3年<br>@各教室<br>(動画視聴)<br><br>「命」の授業<br>4～6年<br>@各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 緑ヶ丘小学校 | 防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>1～4年<br>@各教室<br>(動画視聴)<br><br>防災啓発講話<br>講師：浅倉 大地氏<br>(国土館大学助教)<br>5～6年<br>@体育館 | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |



| 学校名    | 1校時目   | 2校時目                   | 3校時目                                     |
|--------|--|------------------------|--|
| 染地小学校  | 通常授業<br>1～2年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>3～6年<br>@各教室<br>（動画視聴）  | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 北ノ台小学校 | 通常授業<br>1～2年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>3～6年<br>@各教室<br>（動画視聴）  | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 多摩川小学校 | 防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>1～6年<br>@各教室<br>（動画視聴）   | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 杉森小学校  | 防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>1～5年<br>@各教室<br>（動画視聴）<br><br>VR防災体験車による震<br>災疑似体験<br>講師：調布消防署員<br>6年<br>@正門前駐車場，<br>第2校庭 | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |

| 学校名    | 1校時目   | 2校時目  | 3校時目                                     |
|--------|--|---|--|
| 飛田給小学校 | 通常授業<br>1～6年<br>@各教室   | 「命」の授業<br>1～2, 4～6年<br>@各教室<br><br>まちかど防災訓練車による消火訓練<br>講師：調布消防署員<br>3年<br>@昇降口前 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 柏野小学校  | 通常授業<br>1～4年<br>@各教室<br><br>「命」の授業<br>5～6年<br>@各教室   | 「命」の授業<br>1～4年<br>@各教室<br><br>まちかど防災訓練車による消火訓練<br>講師：調布消防署員<br>5～6年<br>@校庭      | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 国領小学校  | 通常授業<br>1～3年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>4～6年<br>@各教室<br>(動画視聴) | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 布田小学校  | 通常授業<br>1～2年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：調布消防署員<br>3～6年<br>@各教室<br>(動画視聴)                        | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |
| 調和小学校  | 通常授業<br>1～2年<br>@各教室<br><br>防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>3～6年<br>@各教室<br>(動画視聴) | 「命」の授業<br>1～6年<br>@各教室  | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練 |

| 学校名   | 1校時目  | 2校時目                    | 3校時目                                      |
|-------|---|-------------------------|---|
| 調布中学校 | 防災啓発講話<br>テーマ：「東日本大震災から12年～この時代の防災」<br>講師：武井 友佑氏<br>（石巻市防災士協議会）<br>1～3年<br>@ 体育館      | 「命」の授業<br>1～3年<br>@ 各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：副校長<br>保護者による引取訓練 |
| 神代中学校 | 防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>1～3年<br>@ 各教室<br>（動画視聴）                 | 「命」の授業<br>1～3年<br>@ 各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練  |
| 第三中学校 | 防災啓発講話<br>テーマ：「災害に対する備えと行動」<br>講師：近藤 貴人氏<br>（防衛省自衛隊東京地方協力本部府中分駐所長）<br>1～3年<br>@ 第1体育館 | 「命」の授業<br>1～3年<br>@ 各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：副校長<br>保護者による引取訓練 |
| 第四中学校 | 防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>1～3年<br>@ 各教室<br>（動画視聴）                 | 「命」の授業<br>1～3年<br>@ 各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練  |
| 第五中学校 | 防災啓発講話<br>講師：国土交通省<br>関東地方整備局<br>京浜河川事務所職員<br>1～3年<br>@ 各教室<br>（動画視聴）                 | 「命」の授業<br>1～3年<br>@ 各教室 | 安全指導<br>発災想定・避難訓練<br>講評：校長<br>保護者による引取訓練  |

| 学校名   | 1校時目  | 2校時目  | 3校時目   |
|-------|---|---|--|
| 第六中学校 | <p>「命」の授業<br/>1～3年<br/>@各教室</p>             | <p>防災啓発講話<br/>講師：国土交通省<br/>関東地方整備局<br/>京浜河川事務所職員<br/>1年<br/>@体育館<br/>2～3年<br/>@各教室<br/>(動画視聴)</p> | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 第七中学校 | <p>「命」の授業<br/>1～3年<br/>@各教室</p>             | <p>起震車訓練・消火器訓練<br/>講師：調布消防署員<br/>1～3年<br/>@校庭</p>   | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |
| 第八中学校 | <p>煙体験訓練<br/>講師：調布消防署員<br/>1～3年<br/>@校庭</p> | <p>「命」の授業<br/>1～3年<br/>@各教室</p>   | <p>安全指導<br/>発災想定・避難訓練<br/>講評：校長<br/>保護者による引取訓練</p> |

|       |
|-------|
| 刊行物番号 |
|-------|

|         |
|---------|
| 2023-67 |
|---------|

**令和5年度  
調布市防災教育の日 実施結果報告書**

発行日 令和5年8月  
発行 調布市教育委員会  
編集 調布市教育委員会教育部教育総務課  
〒182-0026 調布市小島町2-36-1  
電話 042-481-7465  
印刷 庁内印刷